

兵庫丹波地域の弥生時代竪穴建物

多賀 茂治

1. はじめに

兵庫県内では2千棟をはるかにこえる弥生時代の竪穴建物が調査されている。同時代の遺構としては最も目にする機会が多いもののひとつであろう。特に平成に入って以降この20年間に蓄積された資料の数は膨大なものがある。しかし資料の豊富さに比して、竪穴建物の研究は活況を呈しているとはいえない。

兵庫県における竪穴建物の研究は、加古郡播磨町大中遺跡（播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館1990）や神戸市西区玉津田中遺跡（兵庫県教育委員会1996）などで、個別の遺跡毎で検討がおこなわれてきたが、旧国単位の広域的な資料がまとめて検討されることはなかった。そのため遺跡単位での検討の結果把握された特色が、どれほど地域的な特色として敷衍できるものなのか不明なままであった。最近播磨地域における弥生時代竪穴建物の集成と検討が試みられるなど（第10回播磨考古学研究集会実行委員会編2009）、ようやく地域単位での研究が始まりつつあり、兵庫県における弥生時代竪穴建物の研究が新しい段階へと進みつつある。

今回検討の対象とした兵庫丹波地域（篠山市・丹波市）も例外ではなく、わずかに丹波市春日町七日市遺跡の発掘調査報告書においておこなわれた、種定淳介による検討が唯一のものであり（種定1990）、兵庫丹波地域全体でのまとまった検討はこれまで試みられることはなかった。

兵庫丹波地域では1980年代に近畿自動車道舞鶴線、1990年代には北近畿豊岡自動車道の建設という大規模開発事業が相次ぎ、インターチェンジ予定地を中心に広大な面積の発掘調査がおこなわれ、弥生時代竪穴建物の調査件数が飛躍的に増加している。地域の特色を明確にするには、まだ資料的に十分ではない部分もあるが、他地域との比較材料を提供するために、本稿ではこれまでに調査された弥生時代竪穴建物を集成し、基礎的なデータ整理をおこなった。

2. 検討対象資料の概要

今回の集成は、これまで調査された弥生時代竪穴建物のうち、発掘調査報告書等で建物の規模・構造を知ることができるものを対象としている。このため発掘調査報告書が未刊のものや、検討に堪える図面等の資料が公表されていないものは対象外としている。

(1) 氷上郡（現丹波市）の弥生時代竪穴建物調査遺跡

氷上郡内では、道路建設に伴う大規模な発掘調査がおこなわれ、弥生時代竪穴建物の調査事例も多い。この地域は水系により東西に分けられるが、最も多くの建物が調査されているのは氷上郡東部、現丹波市春日町の七日市遺跡である。この遺跡は日本海側に注ぐ由良川水系竹田川左岸の河岸段丘上にあり、弥生時代後期の一時期を除き、集落が継続している。

中期後半の最盛期には南北1 km、東西300 m以上の範囲に遺構が広がる、丹波地域最大の弥生時代集落遺跡である。圃場整備、高速道路建設などに伴い発掘調査が行われており、これまでに120棟以上の竪穴建物が調査されている。ただし建物の時期は中期後半、後期前半、終末期のものがほとんどであり、中期前半以前及び後期後半の建物はほとんどない。

七日市遺跡に続く数の竪穴建物を調査しているのは、同じく竹田川左岸、七日市遺跡から2kmほど南側にある丹波市春日町国領遺跡である。この遺跡は後期前半から後期後半まで継続する集落であり、その存続時期はほぼ七日市遺跡の衰退期にあたるため、七日市遺跡に居住していた人たちが居を移した集落であると考えられている。竪穴建物は16棟調査されており、弥生時代後期の建物の好資料を提供している。この他、竹田川水系では丹波市市島町の的場遺跡、高坂西遺跡、上田遺跡でも弥生時代中期から後期の竪穴建物が調査されている。

氷上郡の西部は瀬戸内海に注ぐ兵庫県随一の河川である加古川の源流域にあたり、多くの弥生時代の遺跡が分布する地域である。ただし集落遺跡全体を発掘するような大規模な調査事例は少なく、東部地域と比べると調査されている竪穴建物は少ない。その中でも比較的多くの竪穴建物が調査されているのは、丹波市氷上町の沖積地にある市辺遺跡及びその西側の扇状地にある横田遺跡である。この両遺跡では後期から終末期の竪穴建物が調査されている。またこの両遺跡の東側、加古川水系と由良川水系の谷中分水界（「水分かれ」）の近隣にある丹波市氷上町石生・杉ノ本遺跡でも後期の竪穴建物が調査されている。

加古川の最上流地域である丹波市青垣町でも小規模な弥生時代遺跡が調査されており、沢野遺跡、田井縄遺跡、土井遺跡で中期から終末期の建物が調査されている。氷上郡の南部、丹波市山南町は加古川本流と篠山盆地を源流とする篠山川が合流するところであり、弥生時代の遺跡が密度濃く分布するところである。谷川踊場遺跡は弥生時代中期の周溝墓群が調査されている遺跡であるが、終末期の竪穴建物も調査されている。

(2) 多紀郡（現篠山市）の弥生時代竪穴建物調査遺跡

多紀郡は標高200mをこえる高地であり、周囲を山に囲まれた山間の盆地である。この地域も多くの弥生時代遺跡が知られているが、氷上郡と比べると大規模開発が少なかったこともあり、調査されている遺跡の数はそれほど多くはない。

盆地北部の氷上郡へ抜けるルート沿いにある内場山城跡は、弥生時代終末期の墳墓群として知られるが、弥生時代の高地性集落でもあり、中期後半から終末期の竪穴建物が調査されている。近隣にある西木之部遺跡でも終末期の竪穴建物が調査されている。

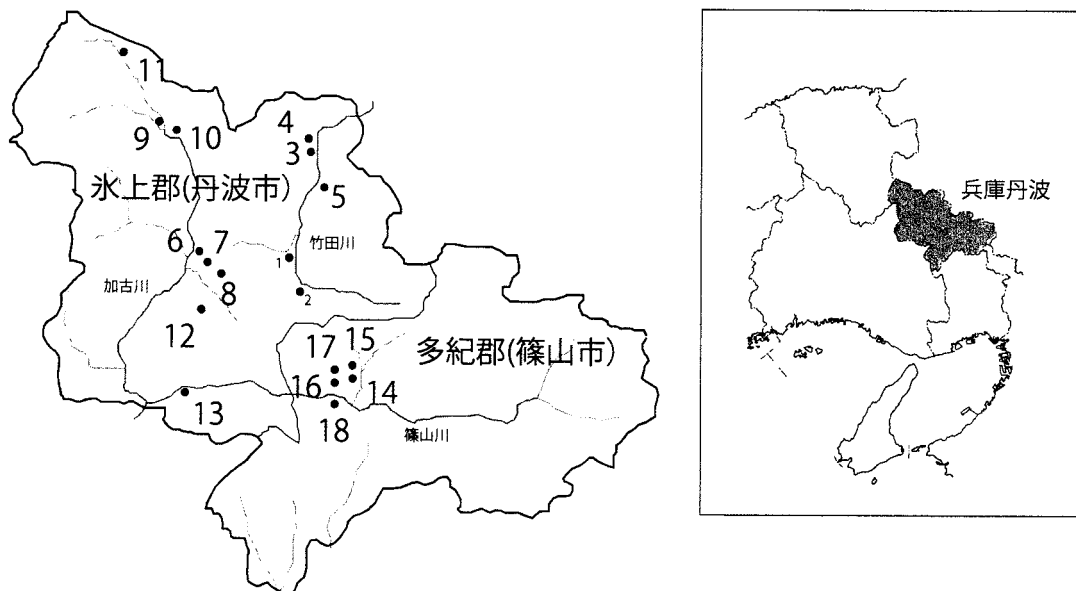
多紀郡で最も弥生時代遺跡が集中する篠山川南側の地域は、圃場整備による調査がおこなわれているが、大規模な調査がないため竪穴建物の調査例は少ない。詳細が不明なため今回の対象からは外したが、竜円寺遺跡では数棟の竪穴建物の調査例が報告されている。

この地域で最も多くの竪穴建物が調査されているのは、盆地西縁部の地域である。この付近は中世の東寺領大山荘として著名な地域であるが、弥生時代遺跡が濃密に分布する所でもある。その中でも北野遺跡、長安寺遺跡の両遺跡で多くの弥生時代竪穴建物が調査されている。北野遺跡は篠山川支流大山川西側の河岸段丘上にある遺跡であり、弥生時代から古墳時代に至る竪穴建物が30棟以上確認されており、遺跡全体では100棟以上の建物の存在が推定されている遺跡である。弥生時代の竪穴建物は後期後半を中心とする時期のものであり、当該期の多紀郡の竪穴建物を代表する資料である。

この北野遺跡の南側、篠山川南岸にある三釈迦山の北麓には弥生時代から古墳時代の集落と墳墓が濃密に分布しており、丹波並木道中央公園整備に伴う大規模な発掘調査がおこなわれたことにより、その全容が明らかになっている。本報告は未刊であり、出土品整理もまだ着手したばかりであるため、遺構の時期等の詳細は今後の検討となるが、桂ヶ谷遺跡において弥生時代中期から後期を中心とした約40棟の竪穴建物が調査されている。

表 1 今回検討の対象とした遺跡と建物数

No	遺跡名	所在地	時期	遺構数	文献
1	七日市遺跡	丹波市春日町	中期～終末期	126	1・2・3・4
2	国領遺跡	丹波市春日町	後期	18	5
3	的場遺跡	丹波市市島町	後期	4	6
4	高坂西遺跡	丹波市市島町	中期	1	7
5	上田遺跡	丹波市市島町	中期～終末期	5	12
6	市辺遺跡	丹波市氷上町	後期～終末期	4	8
7	横田遺跡	丹波市氷上町	後期～終末期	19	9
8	石生・杉ノ本遺跡	丹波市氷上町	後期	5	13
9	沢野遺跡	丹波市青垣町	後期～終末期	9	10
10	田井縄遺跡	丹波市青垣町	後期～終末期	7	11
11	土井遺跡	丹波市青垣町	中期	3	14
12	大新屋遺跡	丹波市柏原町	終末期	1	12
13	谷川踊場遺跡	丹波市山南町	終末期	2	13
14	西木之部遺跡	篠山市東木之部	終末期	5	15
15	内場山城跡	篠山市上板井	中期～終末期	7	16
16	北野遺跡	篠山市北野	後期～終末期	13	17
17	長安寺遺跡	篠山市長安寺	後期	1	17
18	桂ヶ谷遺跡	篠山市大山下	中期～終末期	38	18・19・20



第1図 遺跡位置図 番号は表1の番号と対応

3. 竪穴建物の変遷

兵庫丹波地域の竪穴建物の変遷を示したものは、これまで種定淳介が七日市遺跡の発掘調査報告書で示したものがあ（種定1990）。七日市遺跡の資料は、弥生時代中期～後期前半、及び終末期が主体であり、この地域の竪穴建物の変遷の概要はこれで知ることができる。今回はこれに新たな資料を追加して、弥生時代中期から終末期に至る変遷を示すことにする。氷上郡と多紀郡では、変遷に若干の違いがあると予想されるが、多紀郡内の資料数が少ないため、今回は主に氷上郡の資料に拠っている。

建物の編年は出土土器の型式をもとにおこなっており、土器編年は兵庫丹波地域の弥生土器編年（多賀2002）に基づいている。ただし竪穴建物から出土する土器の量が極めて少ないのが一般的であるため、土器において細分した時期幅で、竪穴建物の帰属時期を決定できない場合が多い。このためⅢ期、

Ⅳ期、Ⅴ期前半(Ⅴ-1期~2期)、Ⅴ期後半(Ⅴ-3期~4期)、Ⅵ期という粗い時期区分での編年とする。なお面積、平面形、支柱数、内部施設についての詳細な検討は後述する。

(1) Ⅰ期~Ⅲ期の竪穴建物

この時期の竪穴建物の調査は、兵庫県内でも極めて少なく、丹波ではわずかに丹波市春日町七日市遺跡と篠山市桂ヶ谷遺跡でⅢ期の建物が調査されているのみである。七日市遺跡ⅢH地区SH01(集成図/七日市遺跡89)はほぼ正方形の輪郭を持つが、柱は壁際に1本検出されたのみで、その他の内部施設も持たない特異な遺構である。周辺に同時期の遺構がまばらであり、通常の竪穴建物とは考えられない。建物かどうかの検討も必要な資料である。

(2) Ⅳ期の竪穴建物

この時期の竪穴建物は丹波市春日町七日市遺跡と篠山市桂ヶ谷遺跡で多く調査されている。円形と方形の建物がある。七日市遺跡ⅢA地区では、円形のSH13が方形のSH14に切られており(集成図/七日市遺跡63・64)、まず円形建物が存在し、方形建物の出現はⅣ期の中でも若干新しい時期になるようである。支柱数は4本のものが多いが、最大10本柱のものまである。

内部施設としてはほぼ例外なく中央部に燃焼施設を持つ。この時期の燃焼施設で特徴的なものは、円形の土坑に長細く浅い土坑が付属するいわゆる「10(イチマル)型中央土坑」である。七日市遺跡や桂ヶ谷遺跡でもかなりの比率を占めている。七日市遺跡ⅢA地区では円形単独の中央土坑を持つSH23(集成図/七日市遺跡73)が、10型中央土坑を持つSH22(集成図/七日市遺跡72)に切られており、このタイプの土坑の出現がⅣ期の中でも新しい時期である可能性を示している。この他、方形の大型の中央土坑を持つものや、円形の2段掘りの中央土坑を持つものなど、多くのバリエーションの燃焼施設が出現している。張り出し部もこの時期に出現している。

(3) Ⅴ期の竪穴建物

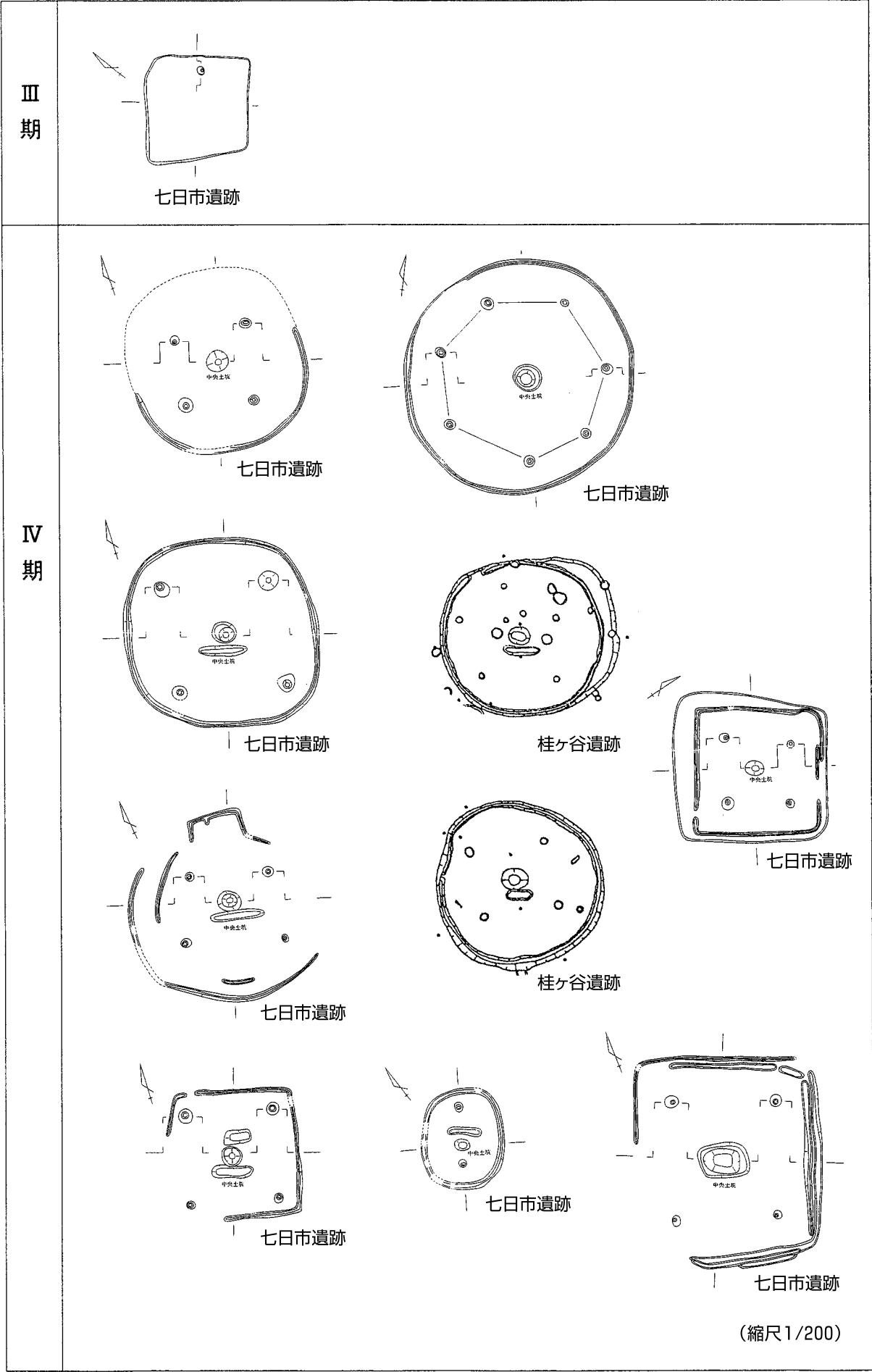
Ⅴ期前半の竪穴建物も丹波市春日町七日市遺跡、国領遺跡や篠山市桂ヶ谷遺跡で多く調査されている。この時期の竪穴建物も円形と方形のものがあり、方形のものは小型、円形のものは大型のものが多い。支柱数は大型のものでは6本、7本、8本と多柱のものが見られる。

内部施設としては中央部に燃焼施設を持つ。円形単独の土坑が多いが、国領遺跡SH9(集成図/国領遺跡10)のように土坑の周囲に低い土堤をめぐらせるものが現れる。また桂ヶ谷遺跡では土坑から建物外にのびる排水溝を設けるものが目立つ。

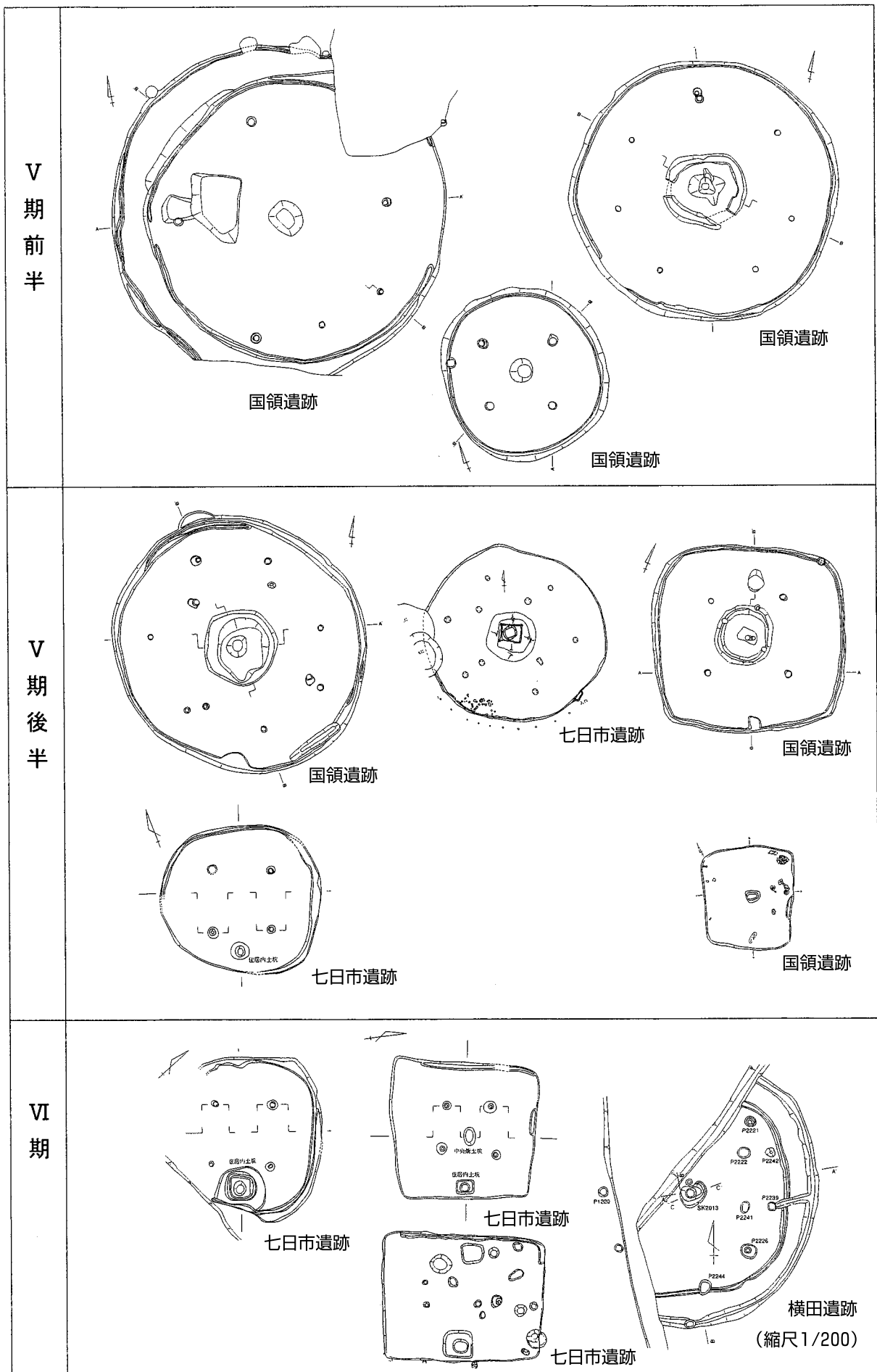
Ⅴ期後半の竪穴建物は丹波市国領遺跡や篠山市北野遺跡で多く調査されている。この時期も円形と方形のものが併存するが、Ⅴ期前半同様大型のものは円形である。内部施設は中央部に燃焼施設があり、円形の土坑の周囲に土堤をめぐらせるものの比率が高い。また七日市遺跡170地区SB05(集成図/七日市遺跡102)や田井縄遺跡SH-5(集成図/田井縄遺跡5)のように、上部方形下部円形の二段掘りになった中央土坑を持つものが現れる。壁際に住居内土坑を持つもの(集成図/七日市遺跡93)も、この時期から出現する。

(4) Ⅵ期の竪穴建物

この時期の竪穴建物は七日市遺跡、横田遺跡などで多く調査されている。中央部に燃焼施設を持つタイプと、壁際に住居内土坑を持つタイプがある。七日市遺跡では円形ないしは隅円方形で壁際に住居内土坑を持つタイプがあり、形式的には方形のものに先行すると考えられる。円形の大型のものも前半までは残るが、後半にはほぼ方形のもののみになるようである。



第2図 兵庫丹波地域における弥生時代竪穴建物の変遷(1)



第3図 兵庫丹波地域における弥生時代竪穴建物の変遷(2)

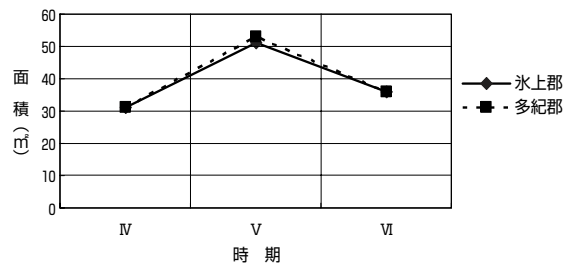
4. 各属性の分析

ここでは竪穴建物の面積、平面形、主柱本数、主柱間距離、燃焼施設、屋内高床部、張り出し部などの各属性について、統計的な分析をおこなう。統計の基礎資料としては、200棟あまりの竪穴建物のうち、時期が特定でき、各属性が図面等から読みとれたものを対象としている。Ⅲ期以前についてはデータが乏しいため、Ⅳ期・Ⅴ期・Ⅵ期のものについてのみ分析をおこなった。Ⅴ期については、前半・後半という細かな時期決定が難しい資料が多いため、区分をおこなわずひとつの時期として扱うことにする。

(1) 面積について

竪穴建物の面積については、報告書で記載されたものはその面積をとり、記載されていないものは直径や辺長から計算をおこなった。このため数㎡程度の誤差はあるが、統計的な分析には支障はない程度であると考える。

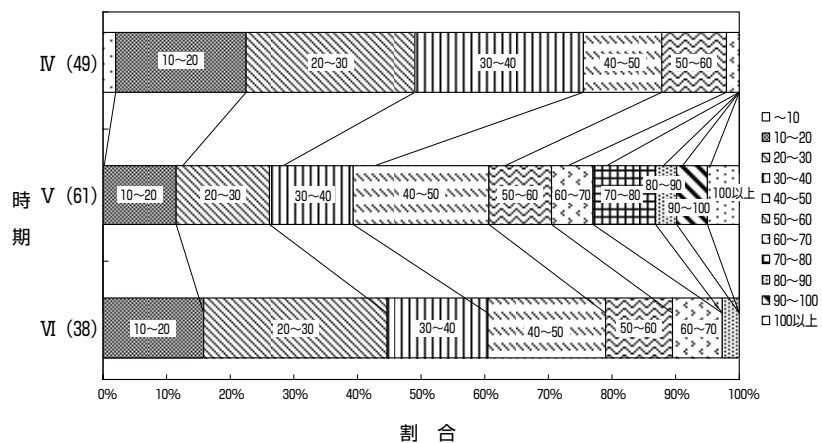
まず各時期の平均面積の変遷を示したのがグラフ1である。氷上郡・多紀郡ともにⅣ期は約30㎡、Ⅴ期は約50㎡、Ⅵ期は約35㎡である。Ⅳ期からⅤ期に向かって規模が拡大し、Ⅵ期には縮小している。



グラフ1 建物平均規模の地域毎の変遷

時期毎に10㎡刻みで構成比率を見たのがグラフ2である。Ⅳ期では30～40㎡のものが最も多く、30㎡以下のものが半数近くを占める。一方、50㎡を超える建物は10%強である。Ⅴ期には40㎡～50㎡のものが最も多く、100㎡を超える超大型の建物も5%程度見られる。全体にⅣ期よりも規模の

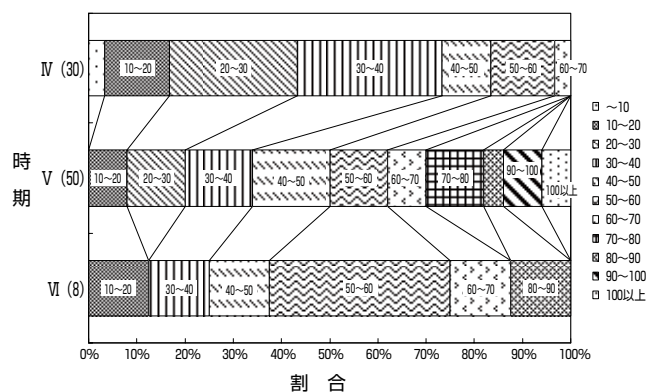
大きな建物の占める割合が増加している。Ⅵ期には50㎡を超える建物は20%程度まで減少し、100㎡を超える超大型建物は見られなくなる。最も大きな割合を占めるのは20㎡～30㎡の比較的小型の建物であり、全体に規模が縮小し、バラツキが少なくなっている。



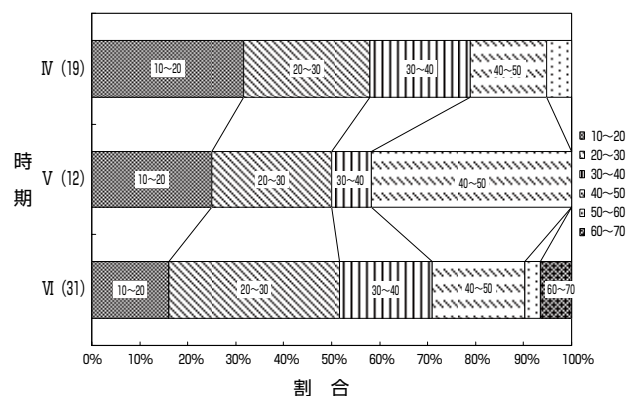
グラフ2 時期別建物面積構成（全体）

次に円形建物と方形建物それぞれで面積構成の変化を見てみよう（グラフ3・4）。Ⅴ期には円形建物の場合、50㎡以上のものが過半数を占めるが、方形建物の場合は、同時期には50㎡以上のものはない。これは50㎡以上の比較的大型の建物は円形に限られることを示しており、方形住居の大型化が困難であったことを示している。

Ⅵ期になると円形建物の比率は大きく下がるが、Ⅴ期と同じく円形建物には大型のものが占める割合が高い傾向は続く。一方で50㎡を超える大型の方形建物も見られるようになり、方形建物の大型化



グラフ3 時期別建物面積構成（円形建物）

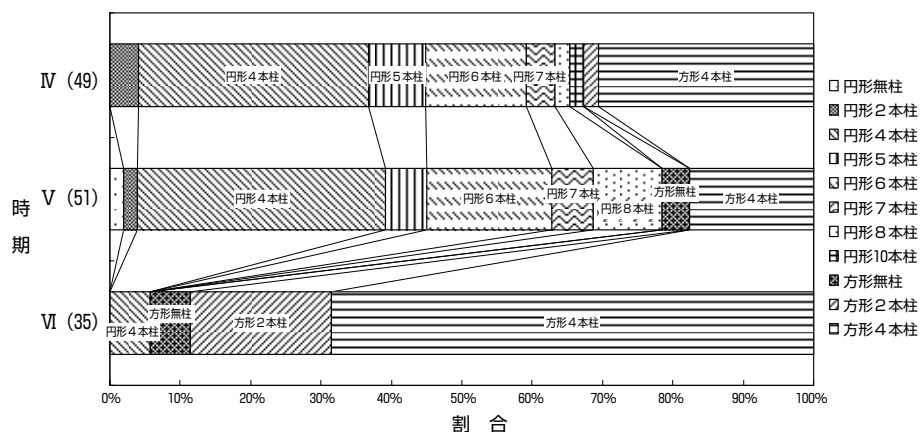


グラフ4 時期別建物面積構成（方形建物）

がある程度は達成されていることを示している。

(2) 平面形及び主柱本数について

建物の平面形及び主柱本数の時期別の構成比率を示したのがグラフ5である。兵庫丹波地域の特色として指摘できるのは、V期における円形建物の比率の高さである。IV期から方形化が進んでお



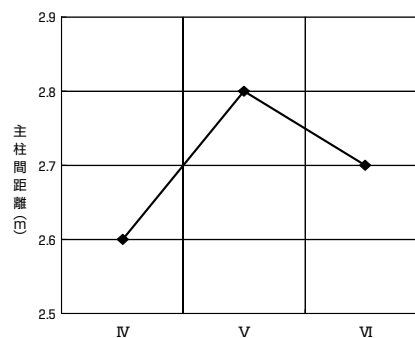
グラフ5 時期別平面形・主柱本数構成

り、約30%が方形建物となっているにもかかわらず、V期になると方形建物の比率は約20%に低下している。これはV期に円形で5本以上の主柱を持つ大型建物が増加していることを反映しており、方形化指向と大型化指向というふたつのベクトルのうち、大型化指向の方が勝り、建物の構造を規定していることを示すものである。VI期になると円形建物は大型のものにわずかに残るのみとなり、小型のものは2本柱、大型のものは4本柱の方形建物というのが一般的な姿となる。

(3) 主柱間の距離について

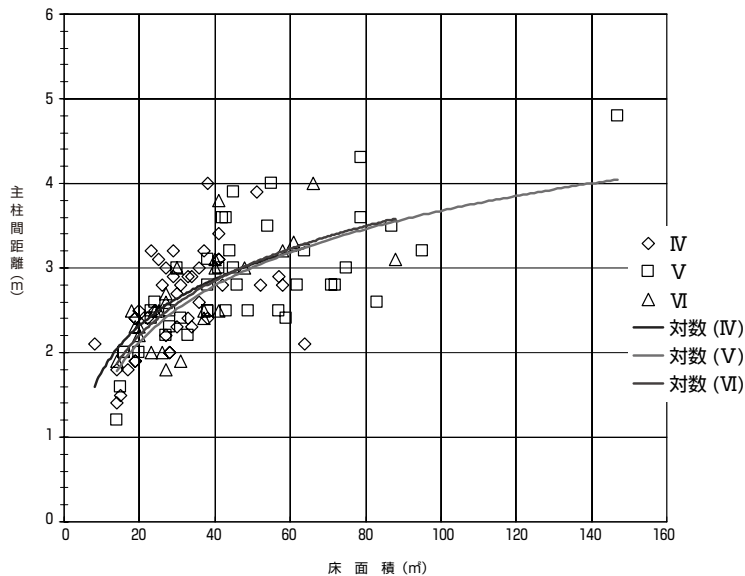
主柱間距離の平均値の変化を示したのがグラフ6である。IV期には2.6m、V期には2.8mと、V期に向かって柱間距離は広がるが、VI期になると2.7mに縮小する。これはIV期からV期にかけて、柱間距離を長く取ることが可能な上屋構造の工夫が達成されたことを示す。V期からVI期にかけての縮小は、VI期における建物の小型化と関連しているのであろう。

次に主柱間距離と建物面積との相関を見てみよう。IV期からVI期のデータを見比べても大きな違いは認められない。建



グラフ6 主柱間距離平均値の推移

物面積が拡大すると、柱間距離も長くなるが、各時期とも約4mが上限で、それ以上柱間距離が長い建物は例外的なものである。また同時期・同規模の建物のグループを見ると、V期までは柱間距離のばらつきが大きいが、VI期になるとほぼ同じ距離に揃ってくる傾向がある。これは建物の規格化が進んだことを示すものであろう。



グラフ7 面積と主柱間距離の相関

(4) 焼土施設について

焼土施設とは、「中央土坑」

「炉」と呼ばれているものである。機能はすべてが「焼土施設」と限るわけではないが、原則炭・灰・焼土を伴うので、この名称を用いることにする。焼土施設については様々な分類が可能であるが、今回は大きくA～Dの4タイプに分類し、これに土堤の付くものを「+」で区別することにした。

弥生時代竪穴建物の焼土施設は、神戸市西区玉津田中遺跡などの事例から、弥生時代前期～中期前半までは、炭・灰が充満した円形の土坑が一般的なものであることが明らかになっている。丹波地域ではこの時期の竪穴建物の焼土施設は知られていないが、おそらく同様のものと考えてよいであろう。

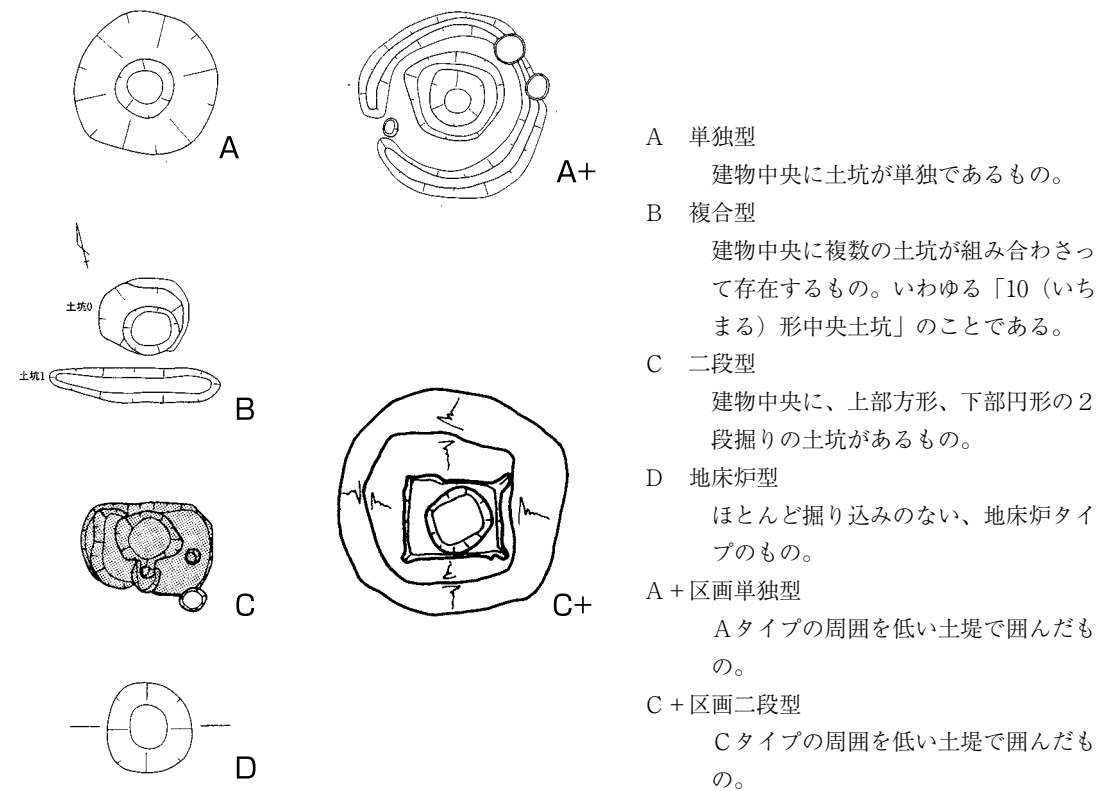


図4 焼土施設の分類

兵庫丹波地域で資料が得られるⅣ期については、円形単独のAタイプが主となるが、約30%のものがいわゆる10型中央土坑（Bタイプ）であることが大きな特色である。このタイプの燃焼施設は西播磨地域で最も出現率が高いので、この地域から周辺地域へと伝播したものと考えられる。

このタイプは西播磨の事例から、円形の土坑（土坑

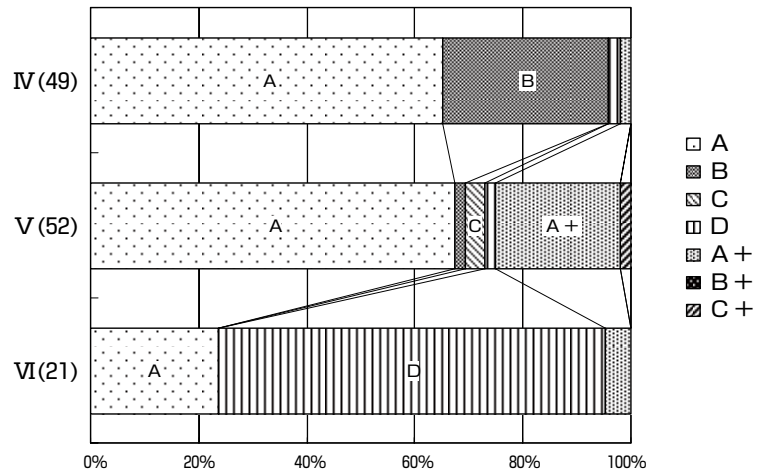
0）の南側に細長く浅い土坑（土坑1）が付属するのが原則である。しかし丹波市春日町七日市遺跡では土坑1が土坑0の南北両側に取り付いたり、土坑1が土坑0の西側に取り付いたり、というように原則からはずれるものが散見される。兵庫丹波地域は10型中央土坑の分布域の北限にあたり（山下2009）、このタイプの燃焼施設に関する情報が完全な形では伝わらず、若干の混乱が生じた形で受容されていることを示すものであろう。

V期になるとBタイプのものは激減し、これに代わり円形単独の土坑に低い土堤がめぐるA+が20%以上の割合を占めるようになる。このタイプのものはV期後半に盛行し、丹波市春日町国領遺跡や篠山市北野遺跡などでは、大半の竪穴建物の燃焼施設がこのタイプで占められるようになる。土堤をもつ燃焼施設は、他地域の事例からⅣ期から出現している可能性もあり、かつて七日市遺跡のⅢA地区SH19（集成図／七日市遺跡69）をⅣ期の事例としてあげたことがあるが（多賀2002）、遺構の時期決定の根拠が弱いので、確実な例とは言い難い。またV期には上部方形、下部円形の2段掘りになったCタイプも出現する。上部円形・下部円形の2段掘りのものはⅣ期から存在するので、これを祖形として発展したのがこのタイプであろう。またわずかではあるが、建物中央部に浅い焼土坑を持つDタイプもこの時期から出現する。

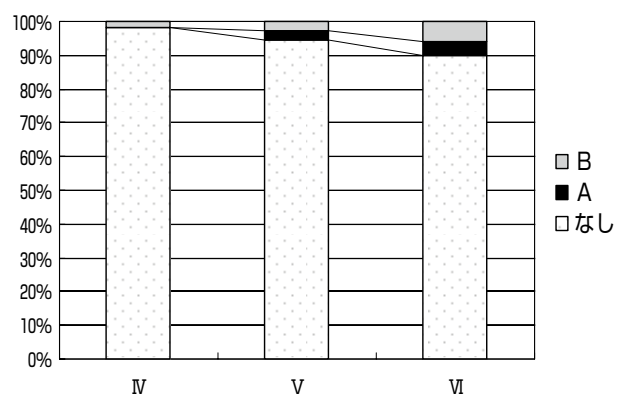
Ⅵ期になると、円形建物にはAタイプやA+タイプの燃焼施設を持つものがあるが、方形建物は原則浅い焼土坑を持つDタイプのみとなる。Dタイプのものには、壁際にかつての燃焼施設から変質した住居内土坑が取り付くのが一般的である。

(5) 屋内高床部

屋内高床部（いわゆる「ベッド状遺構」）は、弥生時代後期から終末期の竪穴建物に目立つ施設であり、東播磨など、地域によってはかなり高い比率で出現する。兵庫丹波地域の竪穴建物を調べたところ、一部分のみ高くするもの（Bタイプ）と、壁際全てを高くするもの（Aタイプ）



グラフ8 燃焼施設の時期別割合



グラフ9 屋内高床部を持つ建物の割合

を全て含めても、Ⅴ期では5%程度、Ⅵ期で10%程度と低い割合を占めるにすぎない。

(6) その他の属性

①住居内土坑

燃烧施設とは別に壁際にある土坑である。方形建物に付く場合が多く、Ⅵ期の建物の約半数近くにこの施設がある。取り付く位置は東壁中央部もしくは南壁中央部であり、丹波市春日町七日市遺跡では90%以上が東壁に付いている。構造は円形もしくは方形の土坑を土堤で囲んだものや上部方形下部円形の土坑のものなど、燃烧施設のA+タイプやCタイプと同じ構造のものが大半である。これは住居内土坑が燃烧施設がその機能を変質させたものであることを物語る。

②張り出し部

建物に付属する通常、方形の突出部である。丹波市春日町七日市遺跡でⅣ期のものが1例あり、丹波市青垣町田井縄遺跡でⅤ期のものが1例あるのみである。

③仕切溝

建物内部を区画するための溝である。Ⅵ期の方型建物の中にこの溝を持つものがあるが、全体の10%未満にすぎない。

5. まとめ

兵庫丹波地域の弥生時代竪穴建物を概観してきたが、その特色をまず列記しておく。

- ① 弥生時代中期後半（Ⅳ期）から竪穴建物の方形化が進むが、円形建物も床面積50㎡以上の大型建物を中心にⅥ期まで残存する。
- ② 竪穴建物の規模は弥生時代中期後半（Ⅳ期）から後期（Ⅴ期）にかけて拡大し、Ⅵ期になると縮小する。
- ③ 燃烧施設は中期後半（Ⅳ期）に複合型のBタイプ（「10型中央土坑」）が現れ、少数ではあるが後期（Ⅴ期）まで残存する。後期（Ⅴ期）に土堤を持つ区画型のA+タイプが現れ、後期後半（Ⅴ期後半）には主流となる。
- ④ 屋内高床部（「ベッド状遺構」）を持つ建物は後期（Ⅴ期）から終末期（Ⅵ期）にかけて存在するが、割合は1割以下と低い。
- ⑤ Ⅵ期には大型建物を除いて、方形4本柱、中央部に地床炉タイプの燃烧施設（Dタイプ）、東ないしは南壁中央に住居内土坑を持つものが一般的になる。

これらの特色が、どのような意味を持つのか、隣接地域のうち弥生時代竪穴建物の詳細な検討が行われている播磨地域（第10回播磨考古学研究集会2009）と比較してみよう。床面積の平均値は、東播磨（加古川下流域、明石川流域）ではⅣ期が32㎡、Ⅴ期が36㎡、Ⅵ期が25㎡、北播磨（加古川中・上流域）ではⅣ期が32㎡、Ⅴ期が45㎡、Ⅵ期が38㎡、西播磨東部（揖保川流域）ではⅣ期が30㎡、Ⅴ期前半が35㎡、Ⅴ期後半が40㎡、Ⅵ期が25㎡、西播磨西部（千種川流域）ではⅣ期が27㎡、Ⅴ期前半が36㎡、Ⅴ期後半が53㎡、Ⅵ期が26㎡である。

これらの数値を比較すると、Ⅳ期には地域的な差はないが、Ⅴ期・Ⅵ期になると規模の大きな北播磨・西播磨西部（千種川流域）、規模の小さな東播磨・西播磨東部（揖保川流域）というグループに分かれる。兵庫丹波の数値を播磨と比べると、数値としては西播磨西部（千種川流域）や北播磨に極め

て近い。これらの地域に共通するのは、Ⅴ期からⅥ期にかけて床面積100㎡をこえるような超大型の竪穴建物が顕著に見られる地域であるという点である。

これは時期別の床面積構成比率からも確認できる。

建物規模の変遷を見る限り、兵庫丹波地域は西播磨西部（千種川流域）や北播磨など、中国山地沿いの地域と同じ傾向が見られ、西播磨東部（揖保川流域）や東播磨など瀬戸内海沿岸地域とは明らかに異なる傾向を示している。

次に燃焼施設について見てみる。Ⅳ期における複合型Bタイプ（「10型」）の出現は、播磨全域に共通する現象であるが、西播磨東部（揖保川流域）では60%、西播磨西部（千種川流域）では50%の建物がこのタイプの燃焼施設を持ち、西播磨全体で高い比率で見られる。これに対し東播磨では30%、北播磨では40%と、西播磨地域と比べると低い割合である。兵庫丹波地域では30%と東播磨地域並の比率である。Ⅳ期段階でのBタイプ

の分布は、丹波市七日市遺跡が北限、北摂の三田盆地が東限となっており（山下2009）、兵庫丹波地域は東播磨地域同様、分布の最前線に位置している。このタイプの燃焼施設が西播磨から東方・北方へと広がったことを示すものであろう。ただし東播磨地域では後期まではBタイプが残らないのに対し、丹波市青垣町田井縄遺跡の1例のみであるが兵庫丹波地域では後期後半まで残存する。少なくとも兵庫丹波地域のうち氷上郡西部（加古川上流域）については、後期までBタイプが残る北播磨地域の影響が及んでいたことを示すものであろう。

兵庫丹波地域でⅤ期後半に高い割合を占める土堤に囲われた区画型の燃焼施設は、Ⅴ期後半の東

		Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
平面形	円形			
	多角形			
	隅円方形			
	方形			
主柱数	なし			
	2本			
	4本			
	5本			
	6本			
	7本			
	8本以上			
面積の中心	20～30㎡			
	30～40㎡			
	40～50㎡			
主柱間距離	2.6m			
	2.7m			
	2.8m			
床面積と柱間の相関	なし			
	あり			
燃焼施設	A（単独型）			
	B（複合型）			
	C（二段型）			
	D（地床炉型）			
	A+（区画単独型）			
	B+（区画複合型）			
	C+（区画二段型）			
高床部	なし			
	A（全周型）			
	B（部分型）			
張り出し部	なし			
	あり			
住居内土坑	なし			
	あり			
仕切り溝	なし			
	あり			

第5図 時期別の属性の変化

播磨では約30%、北播磨では20%強、中播磨（市川流域）では70%強、西播磨西部（千種川流域）では20%、西播磨東部（揖保川流域）ではほとんど見られない。このタイプの焼土施設は西播磨東部（揖保川流域）から東播磨にかけての瀬戸内海沿岸部に分布の中心があり、その影響が北播磨を介して兵庫丹波地域にまで及んでいるのであろう。

屋内高床部は、東播磨・北播磨ではⅤ期後半には60%、Ⅵ期には50%、中播磨ではⅤ期後半に80%、Ⅵ期には60%の建物に見られる。これに対し、西播磨ではⅤ期後半に20%弱、Ⅵ期に30%と、著しく低い割合となる。兵庫丹波地域ではⅤ期～Ⅵ期を通じて10%弱の建物にしか見られず、播磨地域と比較すると低い割合である。これは屋内高床部を持つ竪穴建物が西播磨東部（揖保川流域）から東播磨にかけての瀬戸内海沿岸地域を中心に分布しており、西播磨西部（千種川流域）や兵庫丹波地域など中国山地沿いの地域では低い割合となることを示している。

Ⅵ期に一般的となる方形4本柱、Dタイプの焼土施設と住居内土坑を持つものは、播磨全域でもⅥ期の標準的な竪穴建物である。このタイプは近畿地方でも弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて標準的な竪穴建物型式である。

以上をまとめると、Ⅳ期には焼土施設に西播磨地域の影響が顕著であり、Ⅴ期になると建物規模・焼土施設・屋内高床部のあり方などに西播磨や北播磨などの中国山地沿いの地域との共通性が顕著となり、Ⅵ期には地域的な特色を失い近畿地方全体で共通性の高い竪穴建物へと収斂していくと言える。これは土器様式の変化とも呼応するものである。すなわち兵庫丹波地域ではⅣ期に西播磨系の体部に列点文を施した広口壺が目立つなど、土器様式に西播磨地域の影響が顕著である。ところが後期になると複合口縁・擬凹線文を特徴とする日本海系の土器様式に転換し、瀬戸内海沿岸部の影響は著しく少なくなる。この日本海系の土器様式の影響は、三田盆地・北播磨・西播磨北部など播磨・摂津の中国山地・丹波山地沿いの地域にも及んでおり、竪穴建物の地域性との程度重なる。そしてⅥ期には畿内系（庄内式・伝統的Ⅴ様式系）の土器様式の影響を受けながら、古墳時代の布留式土器へと変化するが、この動きもⅥ期の竪穴建物の地域性の喪失と共通する現象である。

このように兵庫丹波地域の竪穴建物の変遷は、土器様式の変化とよく対応するものであるが、これは兵庫丹波における弥生墓制の変化とも対応する。すなわち兵庫丹波では弥生時代中期までは周溝墓が主体であるが、後期になると丘陵部に台状墓を構築するようになり、墓制も土器様式と同様に日本海系のものへと変化する。土器の破碎供献や船底形の木棺、鉄製品の副葬など、丹波地域との共通性を示す要素が多く指摘できる。竪穴建物と墓の変化のあり方が完全に一致するものかどうかは、今後丹波・丹後・但馬地域の弥生時代竪穴建物と兵庫丹波地域の竪穴建物の比較、播磨地域と丹波・丹後地域との墓制の比較など、詳細な検討が必要であるが、竪穴建物や土器などの日常レベルの生活文化と、埋葬や祭祀といったより高次の精神文化との関係を探る上で重要な課題である。

竪穴建物は弥生人の生活の根拠となった施設であり、どのような建物に暮らすのかは、単純な嗜好の問題ではなく、深くその機能的な必然性とかかわっているはずである。今回は機能面についての検討はあまりおこなわなかったが、建物の形態・規模・構造・内部施設の配置は、全てが関連しているものであり、どれか一つの属性だけが単独で変化するものではなく、またその変化には必ず合理的に説明できる理由があるはずである。兵庫丹波における竪穴建物の変遷も、弥生人たちの創意工夫・試行錯誤の結果であり、彼らの生活文化を知る上でさらに研究を深めてゆく必要があるテーマである。本稿が丹波地域における弥生文化研究の発展に寄与できることを願う次第である。

参考文献

【兵庫丹波地域弥生時代竪穴建物掲載文献】

- 1 兵庫県教育委員会 1990 『七日市遺跡Ⅰ 第2分冊』
- 2 兵庫県教育委員会 2003 『七日市遺跡Ⅲ－弥生～平安時代の調査－』
- 3 春日七日市遺跡発掘調査団・春日町 1984 『春日七日市遺跡－確認調査報告書－』
- 4 兵庫県教育委員会 1990 『七日市遺跡Ⅱ』
- 5 兵庫県教育委員会 1993 『国領遺跡Ⅱ』
- 6 兵庫県教育委員会 2002 『的場遺跡・上ノ段遺跡』
- 7 兵庫県教育委員会 2005 『高坂古墳群』
- 8 兵庫県教育委員会 2005 『市辺遺跡』
- 9 兵庫県教育委員会 2006 『横田遺跡・横田北古墳群』
- 10 兵庫県教育委員会 2007 『沢野遺跡』
- 11 水上郡教育委員会 1997 『水上郡埋蔵文化財調査概要報告書Ⅰ』
- 12 水上郡教育委員会 2000 『水上郡埋蔵文化財調査概要報告書Ⅲ』
- 13 水上郡教育委員会 2003 『水上郡埋蔵文化財調査概要報告書Ⅴ』
- 14 兵庫県教育委員会 2008 『土井遺跡』
- 15 兵庫県教育委員会 1993 『西木之部遺跡』
- 16 兵庫県教育委員会 1993 『内場山城跡』
- 17 西紀・丹南町教育委員会 1992 『大山荘内埋蔵文化財調査概要報告書』
- 18 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 2000 『平成11年度年報』
- 19 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 2001 『平成12年度年報』
- 20 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 2002 『平成13年度年報』

【その他参考文献】

- 播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館 1990 『播磨大中遺跡の研究』
- 兵庫県教育委員会 1996 『玉津田中遺跡第6分冊（総括編）』
- 種定淳介 1990 「第5章第1節第1項住居址について」『七日市遺跡Ⅰ 第2分冊』 兵庫県教育委員会編
- 第10回播磨考古学研究集会実行委員会編 2009 『播磨の弥生時代竪穴建物を探る』
- 多賀茂治 2002 「兵庫丹波における弥生土器の様相（予察）」『兵庫県埋蔵文化財研究紀要』第2号
- 多賀茂治 2002 「兵庫丹波地域における弥生集落の動態」『みずほ』第37号
- 山下史朗 2009 「播磨の竪穴建物研究の課題」『播磨の弥生時代竪穴建物を探る』第10回播磨考古学研究集会実行委員会編

兵庫県丹波弥生時代竪穴建物一覧(1)

No	所在地1	所在地2	遺跡	遺跡名	時期	平面形	規模 (m)	床面積 (㎡)	柱本数 (本)	主柱間 距離(m)	ベツ状 遺構	焼 施設	住居内 土 坑	張り 出し	仕切端	特記事項	文献	備考
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB01	V	方形	5.5	5.5	23	4	2.5	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB02	Ⅵ	長方形	3.1										1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB03	Ⅳ	方形	5.5	5.5	29	4	3.2	A				時期はⅤかも	1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB04	Vか	円形	7.9	4.5	43	4	3.6	A+				柱数は多いかも	1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB05	ⅣかV	円四方形	5.8	5.2	27	4	2.4	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB06	Ⅳ	隅四方形	7.9	7.9	58	4	4.5	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB07	Ⅳ	円形	6.8	6.8	33	4	2.9	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB08	Ⅳ	隅四方形	5.9	5.5	31	4	2.8	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB09	ⅣかV	隅四方形	5.2	5.2	29	4	3.3	A				ⅢのSH02と同一	1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB10	ⅣかV	方形										ⅢのSH08と同一	1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB11	Ⅵ	方形	6.5	6.5	42	4			東中央1				1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB12	V前	隅四方形	6.8	6.8	45	4	3.9	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB13	Ⅳ	円形	6.4		30	4	2.7	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB14	Ⅵ	方形	6.4	6.4	37	4	2.4	Dか	南中央1				1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB15	Ⅳ	円形	5.8		27	4	3	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB16	V	方形	5.4	5.4	30	4	3	C					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB17	Ⅳ	隅四方形	7.0	7.0	49	4		B					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB18	Ⅳ	円形	7.0		29	4	2.9	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB19	Ⅳ	円形	5.3		22	4	2.4	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB20	Ⅳ	円形	5.0		19	4	2.4	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB21	Ⅳ	円形	5.9		27	4	2.2	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB22	Ⅳ	円形	7.3		42	5	2.8	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB23	ⅣかV	円形	3.2										1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB24	ⅣかV	方形	3.8	3.5	13	2	1.4	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB25	Ⅳ	隅四方形	4.3	4.3	20	4	2.5	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB26	Ⅵ	方形	4.7	4.7	24	4	2.5	B					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB27	ⅣかV	円形	8.6		48	4	3.6	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB28	Ⅳ	方形	6.0	6.0	36	4	3	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB29	Ⅳ	円形	4.8		19	4	2.4	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB30	ⅣかV	方形	7.3	7.3	52	4	3.6	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB31	V前	円形	7.0		38	4	3.1	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB32	Ⅵ	方形	4.6	4.4	20	4	2.2	D					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB33	V前	円形	7.5		45	4	3	C					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB34	Ⅵ	方形	4.9	4.9	23	4	2	D					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB35	Ⅵ	方形	6.0	6.0	40	4	3	D					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB36	Ⅵ	円形	3.4		14	4	1.9	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB37	VかⅥ	長方形	5.1	2.7	14	2	2.4						1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB38	Ⅵ	方形											1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB39	VかⅥ	長方形	3.1										1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB40	Ⅵ	方形											1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB41	VかⅥ	方形	4.4	4.4	20	4							1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB42	Ⅳ	円形	4.7		17	4	1.8	B					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB43	Ⅳ	方形	6.1	6.1	37	4	3.2	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB44	Ⅳ	円形	6.5		33	4	2.4	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB45	Ⅳ	円形	6.5		34	4	2.9	A					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB46	Ⅵ	長方形	5.9	4.5	27	2	2.7						1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB47	ⅣかV	円形	7.5		44								1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB48	VかⅥ	方形											1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB49	Ⅵ	方形	6.3	3.8	40	4	3.1	D					1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB50	VかⅥ	方形											1	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH01	Ⅵ	方形	5.3	5.0	27	4	1.8	D	東中央1				2	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH02	Ⅵ	方形										IのSB10と同一	2	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH03	Ⅳ	円形	8.1		52	5	2.8	A					2	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH04	Ⅳ	円形	6.6		34	4	2.3	B					2	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH05	Ⅳ	円形	7.0		38	6	2.4	A					2	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH06	Ⅳ	隅四方形	7.0	6.4	45			A					2	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH07	Ⅳ	隅四方形	6.7	6.1	41	4	3.4	A					2	

兵庫県丹波弥生時代竪穴建物一覽(2)

No	所在地1	所在地2	遺跡	遺跡名	番号	遺跡名2	地区名	遺構名	時期	平面形	規模 (m)	床面積 (㎡)	柱礎数 (本)	柱礎間 距離(m)	ベツト状 遺構	焼燬 施設	住居内 土 坑	張り 出し	仕切溝	特記事項	文献	備考	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH08	58	Ⅲ	A地区	SH08	古墳前	方形	4.1	3.5	14	4	1.6		D	北西隅1		IのSB11と同一	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH09	59	Ⅲ	A地区	SH09	Ⅳ	方形	3.7	3.1	8	2	2.1		B				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH10	60	Ⅲ	A地区	SH10	Ⅳ	楕円形	3.5	3.0	11								2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH11	61	Ⅲ	A地区	SH11	Ⅳ	方形	7.5	6.8	51	4	3.9		A				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH12	62	Ⅲ	A地区	SH12	Ⅳ	円形	8.0		50								2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH13	63	Ⅲ	A地区	SH13	Ⅳ	方形	5.0	5.0	25	4	3.1		B				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH14	64	Ⅲ	A地区	SH14	Ⅳ	方形	4.9	4.6	23	4	3.2		B			副土坑両側に有り	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH15	65	Ⅲ	A地区	SH15	Ⅳ	方形	5.0	5.0	25	4	2.5		D	東中央1			2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH16	66	Ⅲ	A地区	SH16	Ⅳ	方形	3.6	3.0	11								2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH17	67	Ⅲ	A地区	SH17	Ⅳ	円形	7.2		41	4	3.1		B				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH18	68	Ⅲ	A地区	SH18	Ⅳ	円形	7.2		41	5	3.1		A+		北1		2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH19	69	Ⅲ	A地区	SH19	Ⅳ	方形	4.5	4.2	19								2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH20	70	Ⅲ	A地区	SH20	Ⅳ	方形	5.6	5.4	30	4	2.3		A				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH21	71	Ⅲ	A地区	SH21	Ⅳ	円形	7.0		38	4	4		B				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH22	72	Ⅲ	A地区	SH22	Ⅳ	円形	6.8		36	4	2.6		A				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH23	73	Ⅲ	A地区	SH23	Ⅳ	円形	8.6		58	7	2.8		B				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH24	74	Ⅲ	A地区	SH24	Ⅳ	円形	8.5		57	7	2.9		A				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH25	75	Ⅲ	A地区	SH25	Ⅳ	円形	3.8	3.8	14	4	1.8		A				2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH26	76	Ⅲ	A地区	SH26	Ⅳ	方形	5.2	5.2	27								2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH27	77	Ⅲ	A地区	SH27	Ⅳ	円形	6.6	6.2	41	4	2.5		D	東中央1			2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH28	78	Ⅲ	A地区	SH28	Ⅳ	円形				6～8						壁なし	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH29	79	Ⅲ	A地区	SH29	Ⅳ	円形				8	2.8		A			壁なし	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH30	80	Ⅲ	A地区	SH30	Ⅳ	円形				6	3		A			壁なし	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH31	81	Ⅲ	A地区	SH31	Ⅳ	円形				6	2.7		A			壁なし	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH32	82	Ⅲ	A地区	SH32	Ⅳ	円形				6	2.5		A			壁なし	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH33	83	Ⅲ	C地区	SH33	Ⅳ	円形				4						住居内土坑土堤あり	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH01	84	Ⅲ	F地区	SH01	Ⅴ後	円形	6.6	6.2	41	5か	2.5		Aか			報告はⅥ	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH02	85	Ⅲ	F地区	SH02	Ⅳか	円形	6以上					Aか			ベッドかどうか不明	2			
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH03	86	Ⅲ	F地区	SH03	不明	方形						不明					2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH04	87	Ⅲ	F地区	SH04	不明	方形						不明					2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH05	88	Ⅲ	F地区	SH05	不明	円形小											2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH06	89	Ⅲ	H地区	SH06	Ⅲ	円形	3.7	3.8	14	0			なし			壁なし	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH07	90	Ⅲ	M地区	SH07	Ⅴ	円形	4.8	3.9	19	2	2.3		D			住居かどうか	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH08	91	Ⅲ	M地区	SH08	Ⅴ	円形	4.7	4.5	21	4	2.7		B	南中央1	有り		2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH09	92	Ⅲ	M地区	SH09	Ⅴ後～Ⅵ	円形	7.0		38	6	2.5		A+	東中央1		住居内土坑土堤あり	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH10	93	Ⅲ	M地区	SH10	Ⅴ後	円形	5.2	5.1	27	4	2.2			南中央1			2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH04	94	Ⅲ	M地区	SH04	Ⅴ	隅円方形	4.0	3.6	14	1			なし	南中央1	住居内土坑土堤あり		2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH05	95	Ⅲ	M地区	SH05	Ⅴ	隅円方形	5.0	4.0	20	4	2.3		なし	東中央1	住居内土坑土堤あり		2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH06	96	Ⅲ	M地区	SH06	Ⅴ	隅円方形	3.8							東中央1 (C+)			2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH07	97	Ⅲ	M地区	SH07	Ⅴ	方形	6.5	6.3	41	4	3.8		D	東中央1 (C+)		住居内土坑土堤あり	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH08	98	Ⅲ	M地区	SH08	Ⅴ	隅円方形	5.5	4.0	22	不明						住居かどうか	2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH09	99	Ⅲ	M地区	SH09	不明	隅円方形											2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SH10	100	Ⅲ	M地区	SH10	Ⅴ	円形	4.7	3.9	18	2	2.5		D	東中央1 (C)			2		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB01	101	Ⅲ	55/56年度	SB01	Ⅴ	円形	5.5	6.0	33								3		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB04	102	Ⅲ	55/56年度	SB04	古墳前	円形	8.5		57	6	2.5		C+			検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB05	103	Ⅲ	55/56年度	SB05	Ⅴ後	円形	7.5	7.0	53							検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB06	104	Ⅲ	55/56年度	SB06	不明	円形	5.0	5.0	25							検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB07	105	Ⅲ	55/56年度	SB07	不明	円形	6.5		33							検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB08	106	Ⅲ	55/56年度	SB08	不明	円形										検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB11	107	Ⅲ	55/56年度	SB11	不明	円形										検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB14	108	Ⅲ	55/56年度	SB14	不明	円形										検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB17	109	Ⅲ	55/56年度	SB17	古墳前	円形	7.2	6.5	47	4	3.7		B	東中央1		ベッド東側ののみ	3		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB02	110	Ⅲ	55/56年度	SB02	古墳前	円形	5.0	4.0	20	2	1.8		B	西中央1		ベッド西側ののみ	3		
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB03	109	Ⅲ	55/56年度	SB03	古墳前	円形										検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB16	110	Ⅲ	55/56年度	SB16	不明	円形										検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB17	111	Ⅲ	55/56年度	SB17	不明	円形										検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB18	112	Ⅲ	55/56年度	SB18	不明	円形										検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB19	113	Ⅲ	55/56年度	SB19	不明	円形										検出のみ		3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB20	114	Ⅲ	55/56年度	SB20	不明	円形										検出のみ		3	

兵庫丹波弥生時代竪穴建物一覽(3)

No	所在地1	所在地2	遺跡	遺跡名	番号	遺跡名2	地区名	遺構名	時期	平面形	規模(m)	床面積(m ²)	柱礎数(本)	主柱間距離(m)	ベツ遺構	焼焼	住居内土坑	張り出し	仕切端	特記事項	文献	備考
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB21	115	55/56年度	169地区	竪穴住居1	不明	隅田方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB22	116	55/56年度	169地区	竪穴住居2	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB23	117	55/56年度	169地区	竪穴住居3	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB25	118	55/56年度	169地区	竪穴住居4	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB26	119	55/56年度	169地区	竪穴住居5A	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB27	120	55/56年度	169地区	竪穴住居5B	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB16	121	55/56年度	159地区	竪穴住居6	不明	隅田方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB10	122	55/56年度	160地区	竪穴住居7	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB09	123	55/56年度	171地区	竪穴住居8	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB30	124	55/56年度	168地区	竪穴住居9	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB31	125	55/56年度	168地区	竪穴住居10	不明	方形										検出のみ	3	
1	丹波市	春日町	七日市遺跡	SB01	126	II		竪穴住居11	不明	方形										一部分のみ	4	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB21	1		川畑地区	竪穴住居1	不明	方形	6.9	5.8	40	0		なし	なし			焼失住居	5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB22	2		川畑地区	竪穴住居2	V後	方形	9.6		72	7	2.8		A+				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB23	3		川畑地区	竪穴住居3	V後	方形	8.9		62	6	2.8		A+				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB24	4		川畑地区	竪穴住居4	V後	隅田方形	6.9	6.7	46	4	2.8		A+				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB25	5		川畑地区	竪穴住居5A	V前	隅田方形	11.5	104	6~7			A+			時期は不確か		削平	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB26	6		川畑地区	竪穴住居5B	V前	隅田方形	9.5	71	7			A+			時期は不確か		削平	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB27	7		川畑地区	竪穴住居6	V	隅田方形							A+				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB28	8		川畑地区	竪穴住居7	V後	隅田方形	8.3		54	4	3.5		不明			中央土坑消滅	5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB29	9		川畑地区	竪穴住居8	V後	隅田方形	7.5		44	4	3.2		A+				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB30	10		川畑地区	竪穴住居9	V前	隅田方形	9.8		75	7	3.0		A+				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB31	11		川畑地区	竪穴住居10	V後	隅田方形	5.4		23	0		B	A+				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB32	12		川畑地区	竪穴住居11	V後	隅田方形	3.8	3.4	13	0			不明				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB33	13		川畑地区	竪穴住居12	V後	隅田方形							不明				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB34	14		川畑地区	竪穴住居13	V後	隅田方形							A+				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB35	15		川畑地区	竪穴住居14	V前	隅田方形	13.7		147	6	4.8		A				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB36	16		川畑地区	竪穴住居15A	V前	隅田方形	15.2		181	不明			A				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB37	17		川畑地区	竪穴住居16	V前	隅田方形	6.3		31	4	2.4		A				5	
2	丹波市	春日町	国領遺跡	SB38	18		川畑地区	竪穴住居17	V前	隅田方形	5.4		23	4	2.4		不明				5	
3	丹波市	市島町	的場遺跡	SH01	1		川畑地区	SH01	V後	隅田方形	7.0		38	5	2.5		A				6	
3	丹波市	市島町	的場遺跡	SH02	2			SH02	V後	隅田方形	6.5		33	4	2.2		A				6	
3	丹波市	市島町	的場遺跡	SH03	3			SH03	V前	隅田方形	8.5		57	不明			不明				6	
3	丹波市	市島町	的場遺跡	SH04	4			SH04	V後	隅田方形	6.0		28	4	2.5		A				6	
4	丹波市	市島町	高坂西遺跡	SH05	1			SH05	V	隅田方形	4.2		14	2	1.4	A					7	
5	丹波市	米上町	市辺遺跡	SH06	1		B地区	SH06	V~VI	方形	4.5	4.5	20	不明		なし					8	
5	丹波市	米上町	市辺遺跡	SH07	2		B地区	SH07	V~VI	方形	5.0	5.0	25	4	3.5		A				8	
5	丹波市	米上町	市辺遺跡	SH08	3		B地区	SH08	V~VI	方形	4.5	4.5	20	4P	不明		A				8	
5	丹波市	米上町	市辺遺跡	SH09	4		C地区	SH09	V後	隅田方形	10.3		83	8	2.6		A			局溝あり	8	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH10	1			SH10	VI	隅田方形	10.6		88	6以上	3.1		不明	東より1			9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH11	2			SH11	V~VI	隅田方形							不明				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH12	3			SH12	V~VI	隅田方形	4.0	4.0	16	4	2.6		不明				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH13	4			SH13	VI	方形	6.9	6.9	48	4	3.0		D	東中央1			9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH14	5			SH14	V~VI	隅田方形	8.4	8.4	71				不明				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH15	6			SH15	V~VI	隅田方形				6	1.5		不明	南1		住居?	9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH16	7			SH16	V~VI	隅田方形				6	2.3		A				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH17	8			SH17	V~VI	隅田方形				6以上	2.2		A				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH18	9			SH18	VI	方形	5.3	4.9	26	2	2.0		A				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH19	10			SH19	VI	方形	8.4		55	6以上			A				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH20	11			SH20	SH2002(仮A)	VI	隅田方形	6.5	5.7	37	4		A				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH21	12			SH21	SH2003(仮B)	VI	隅田方形	8.3	8.3	54	不明		A				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH22	13			SH22	SH2004	VI	隅田方形	8.3	8.3	69	不明		A				9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH23	14			SH23	SH2005	VI	方形	4.2	4.2	18	2か			東中央1			9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH24	15			SH24	SH2006	VI	方形	4.4	不明	0						住居?	9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH25	16			SH25	SH2007	V~VI	方形	4.3	不明	2か							9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH26	17			SH26	SH2008	V~VI	方形	5.9	27	4か5	2.0		A			排水溝	9	
6	丹波市	米上町	横田遺跡	SH27	18			SH27	SH2009	V後	隅田方形	7.9	49	不明			A				9	

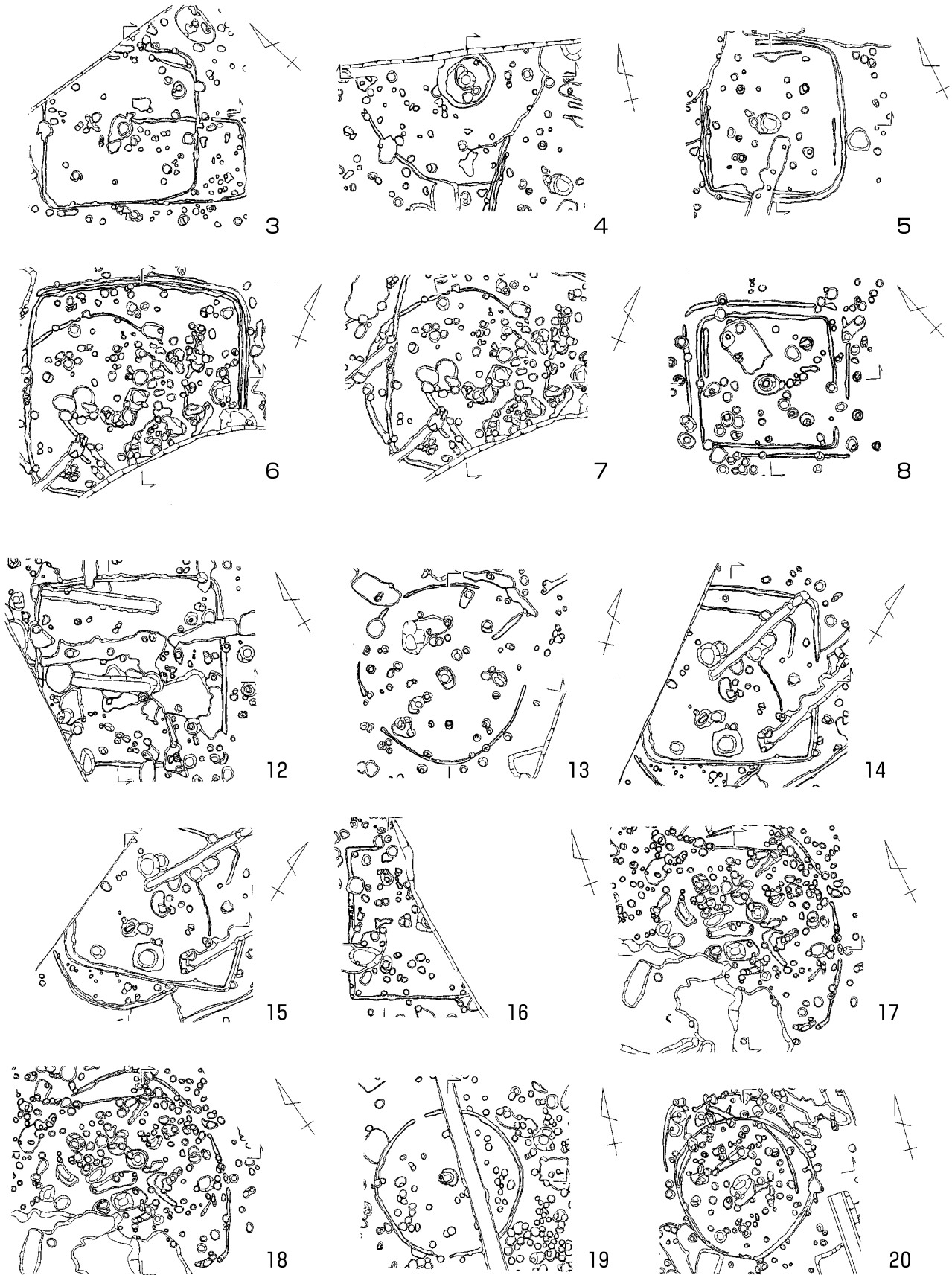
兵庫県丹波弥生時代竪穴建物一覽(4)

No	所在地1	所在地2	遺跡	遺跡名	遺跡名2	地区名	遺構名	時期	平面形	規模 (m)	床面積 (㎡)	柱本数 (本)	主柱間 距離(m)	ベツ状 遺構	焼 施設	住居内 土 坑	張り 出し	仕切端	特記事項	文献	備考
6	丹波市	水上町	横田遺跡	19		I地区	SH2010	Ⅲ	方形	4.1	不明	2か				東中央1				9	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	1		I地区	SH04	V後	円形	10.0		4	4.3		A					10	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	2		I地区	SH05	V後	円形											10	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	3		I地区	SH12	V後	円形	8.4		4	4.0		A					10	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	4		I地区	SH18	V後	円形	9.0		6	3.2		A					10	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	5		I地区	SH19	V後	隅円方形	5.8	4.2	4	2.6		A					10	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	6		I地区	SH21	V後	円形	4.1	3.5	4	1.2		A+					10	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	7		Ⅲ・Ⅳ-C地区	SH04	Ⅲ	円形	8.8		4	3.3		A+					10	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	8		V-C地区	SH01上層	Ⅳ	隅円方形	4.6	4.2	4	1.9	A		東中央1				10	
7	丹波市	青垣町	沢野遺跡	9		V-C地区	SH01下層	Ⅳ	隅円方形	4.6	4.2	4	1.9	B		東中央1				10	
8	丹波市	青垣町	田井縄遺跡	1		天神地区	SH-2	V後	円形	7.1		4	不明		不明		西側1			11	
8	丹波市	青垣町	田井縄遺跡	2		天神地区	SH-3	V後	円形	4.3		15	2か		B					11	
8	丹波市	青垣町	田井縄遺跡	3		天神地区	SH-4a	Ⅲ	隅円方形	6.1	6.1	37	4	2.5	B					11	
8	丹波市	青垣町	田井縄遺跡	4		天神地区	SH-4b	Ⅲ	隅円方形	8.1	8.1	66	4	4	なし					11	
8	丹波市	青垣町	田井縄遺跡	5		天神地区	SH-5	V後～Ⅲ	円形	7.0		38	4	4	C					11	
8	丹波市	青垣町	田井縄遺跡	6		天神地区	SH-6	V後～Ⅲ	円形	8.5		57	4	4	C+					11	
8	丹波市	青垣町	田井縄遺跡	7		天神地区	SH-8	Ⅲ	方形	5.4	5.4	29	4		D	2				11	
9	丹波市	柏原町	大新屋遺跡	1		Iトレンチ	竪穴住居	Ⅲ	円形	8.4		55	不明		不明					12	
10	丹波市	市島町	上田遺跡	1			竪穴住居1 a	Ⅲ～古墳前	方形	5.6	5.6	31	4	1.9	不明	東中央1				12	
10	丹波市	市島町	上田遺跡	2			竪穴住居1 b	Ⅲ～古墳前	方形	7.6	7.6	58	4	3.2	不明	東中央1				12	
10	丹波市	市島町	上田遺跡	3			竪穴住居2	Ⅳ	円形			5			不明					12	
10	丹波市	市島町	上田遺跡	4			竪穴住居3	Ⅲ?	方形	不明		不明			不明					12	
10	丹波市	市島町	上田遺跡	5			竪穴住居4	Ⅳ	円形	不明		不明			不明					12	
11	丹波市	山南町	谷川開場遺跡	1		A区	SH1 a	Ⅲ	方形	7以上		不明			不明					13	
11	丹波市	山南町	谷川開場遺跡	2		A区	SH1 b	Ⅲ	円形	9.5以上		不明			不明					13	
12	丹波市	水上町	石生・杉ノ本遺跡	1			竪穴住居1	V	隅円方形	4.5	3.9	18			不明					13	
12	丹波市	水上町	石生・杉ノ本遺跡	2			竪穴住居2	V	隅円方形	6.0	5.5	33			不明					13	
12	丹波市	水上町	石生・杉ノ本遺跡	3			竪穴住居3	V	隅円方形						不明					13	
12	丹波市	水上町	石生・杉ノ本遺跡	4			竪穴住居4	V	方形						不明					13	
12	丹波市	水上町	石生・杉ノ本遺跡	5			竪穴住居5	V	方形						不明					13	
13	丹波市	青垣町	土井遺跡	1			SH037 A	Ⅳ	円形	6.5		33	不明		A					14	
13	丹波市	青垣町	土井遺跡	2			SH058 A	Ⅳ	隅円方形	4.6	4.6	21	4		不明					14	
13	丹波市	青垣町	土井遺跡	3			SH059 A	Ⅳ	隅円方形	不明		不明			不明					14	
14	篠山市	東木之部	西木之部遺跡	1		B地区	SH1	Ⅲ	隅円方形	6.2	4.4以上				不明					15	
14	篠山市	東木之部	西木之部遺跡	2			SH2	Ⅲ	隅円方形	5.6	5.4	30	4	3.0	不明					15	
14	篠山市	東木之部	西木之部遺跡	3			SH3	Ⅲ	円形	6.8	5.0	34	不明		不明					15	
14	篠山市	東木之部	西木之部遺跡	4			SH4	Ⅲ	方形	5.4	2.9以上	4	3.0		D		有り	焼失住居		15	
14	篠山市	東木之部	西木之部遺跡	5			SH5	Ⅲ	方形	4.0		不明			不明					15	
15	篠山市	下板井	内場山城跡	1		尾根部	5号住居跡	Ⅲ～Ⅴ	円形	6.0		28			不明					16	
15	篠山市	下板井	内場山城跡	2		尾根部	23号住居跡	Ⅲ	円形		不明	不明			不明					16	
15	篠山市	下板井	内場山城跡	3		尾根部	8号住居跡	V	方形	10以上		不明			不明					16	
15	篠山市	下板井	内場山城跡	4		尾根部	12号住居跡	不明	方形						不明					16	
15	篠山市	下板井	内場山城跡	5		尾根部	10号住居跡	V	円形	8.7		59	8	2.4	A					16	
15	篠山市	下板井	内場山城跡	6		尾根部	1号住居跡	V前	円形	7.9		49	6	2.5	A					16	
15	篠山市	下板井	内場山城跡	7		山麓部	6号住居跡	V後～Ⅲ	円形	5.2		21	不明	B	不明			排水溝		16	
16	篠山市	北野	北野遺跡	1			01竪穴住居	Vか	円形	6.0		28	不明		不明					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	3			03竪穴住居	Vか	方形	6～7		40	4		A					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	4			04竪穴住居	V	円形	4.5		16	4	2.0	A+					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	5			05竪穴住居	V	円形	11.0		95	不明		不明					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	6			06竪穴住居	V	円形	3.0		不明	不明		不明					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	7			07竪穴住居	V	円形	6～7		不明	不明		不明					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	8			08竪穴住居	V	円形	6.0		28	4	2.3	不明					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	9			01竪穴住居a	V	円形	4.5		16	4	2.0	A+					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	10			01竪穴住居b	V	円形	11.0		95	8	3.2	D					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	11			01竪穴住居	V	隅円方形	9.0		64	4	不明	A+					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	12		下大通坪地区	竪穴住居址6	V～古墳前	隅円方形	4.0	4.0	16	0		なし					17	
16	篠山市	北野	北野遺跡	13		下大通坪地区	竪穴住居址7	V～古墳前	隅円方形	3.0		不明	不明		不明					17	

兵庫県丹波弥生時代竪穴建物一覧(5)

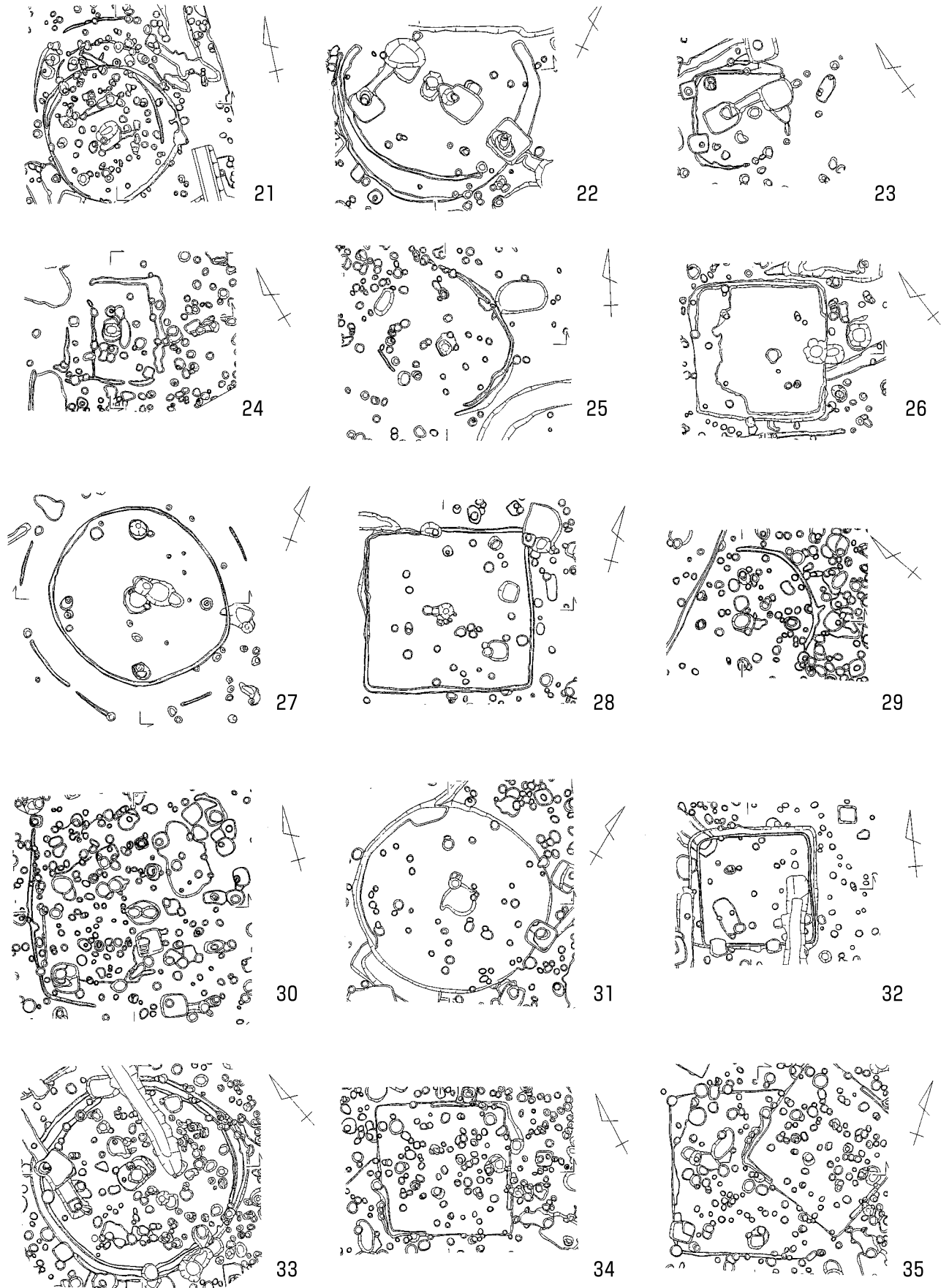
No	所在地1	所在地2	遺跡	遺跡名	番号	遺跡名2	地区名	遺構名	時期	平面形	規模 (m)	床面積 (㎡)	柱礎数 (本)	柱間 距離(m)	ベツ 遺構	焼 施設	住居内 土 坑	張り 出し	仕切端	特記事項	文献	備考
17	篠山市		長安寺遺跡		1			竪穴住居	V	方形	4.4	4.4	19	4	不明	Aか					17	
18	篠山市		龍門寺遺跡		1																	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		1		A1地区	SH02	IV	円形	6.0	28	6	2.0		B					18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		2		A1地区	SH03	V	方形	6.5	42	4	3.6		A				排水溝・焼失住居	18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		3		A1地区	SH04	V	円形	10.0	79	6	3.6		A				方形と重なる	18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		4		A1地区	SH06	Vか	円形	10.5	87	6	3.5	Aか?	A				排水溝・周溝	18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		5		A1地区	SH08	IV~V	円形	8.0	50	6			A				排水溝	18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		6		A1地区	SH09	IV~V	円形	4.0	13	不明								18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		7		A1地区	SH10	IV~V	方形	不明										18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		8		A1地区	SH14	IV~V	方形	5.5	24	4	2.4		A				2本柱かも	18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		9		A1地区	SH15	IV~V	円形	不明					A				中央土坑のみ	18	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		10		A2地区	SH02	IV~V	隅円方形	5.8	34	4	3.8		A				周溝	19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		11		A2地区	SH03	IV	円形	7.0	26	4	2.8		B					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		12		A2地区	SH92	IV~V	円形	7.0	38	6以上	2.2		Bか					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		13		A2地区	SH125	IV~V	円形	4.0	13	4	2.4		A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		14		A2地区	SH81	IV~V	円形	10.0	79	不明			A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		15		A2地区	SH122	IV	円形	5.5	24	6	2.5		B				中央土坑周囲に柱穴	19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		16		A2地区	SH82a	IV~V	円形	7.0	38	不明			A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		17		A2地区	SH82b	IV~V	隅円方形	不明					A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		18		A2地区	SH82c	IV~V	円形	7.5	44	不明			不明					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		19		A2地区	SH123	IV	円形	6.0	28	6	2		B					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		20		A2地区	SH118	Vか	円形	7.2	41	5	3		A				排水溝	19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		21		A2地区	無番1	IV~V	円形	8.0	50	不明			B					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		22		A2地区	無番2	IV~V	円形	6.0	28	不明			A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		23		B地区	SH01-1	V	円形	11.0	95	8?			A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		24		B地区	SH01-2	V	円形	9.0	64	不明			A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		25		B地区	SH01-3	V	円形	8.0	50	不明			A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		26		B地区	SH01-4	V	円形	5.0	20	4	2		A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		27		B地区	SH04	V	円形	7.4	43	6	2.5		A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		28		D地区	SH01	IV	長方形	4.5	15	2	1.5		なし					20	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		29		D地区	SH02	IV	円形	9.0	64	10	2.1		B					20	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		30		E地区	SH04	V	円形	10.8	92	不明			A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		31		E地区	SH06	VI	円形	7.6	45	不明			B					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		32		E地区	SH11	V~VI	隅円方形	4.8	17	2	1.6		D	東中央1				19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		33		E地区	SH12	V	円形	7.0	38	なし			なし					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		34		F地区	SH01	V	円形	9.5	71	8	2.8		A				排水溝	19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		35		F地区	SH05	V	円形	7.0	38	4	2.8		A					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		36		F地区	SH12	IV~V	円形	6.5	33	不明			B					19	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		37		H地区	段状遺構2	III~IV	円形	4.5	16	不明			A					20	
19	篠山市		桂ヶ谷遺跡		38		H地区	段状遺構3	III~IV	円形	5.5	24	不明			A					20	

七日市遺跡(丹波市春日町)



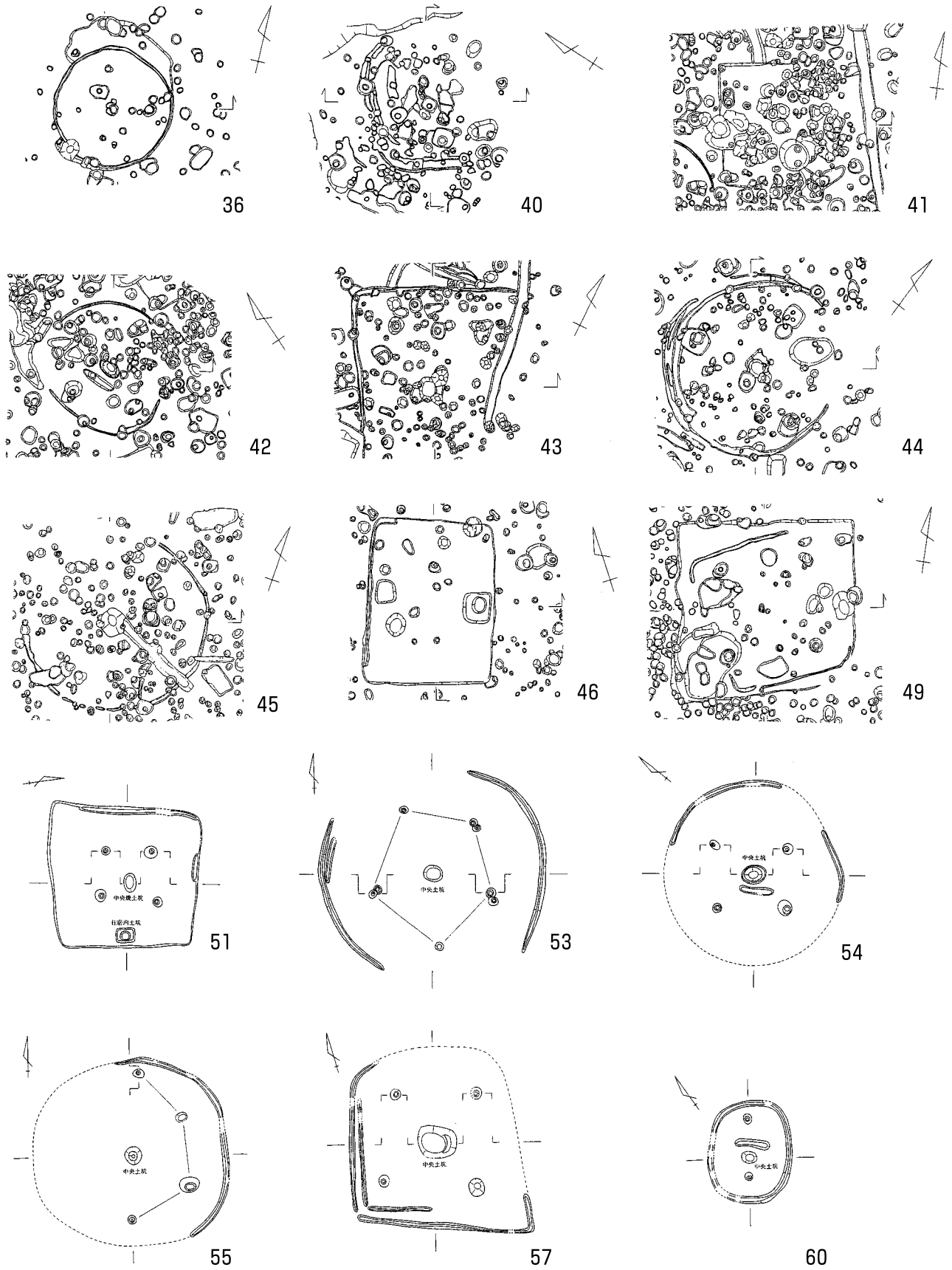
第6図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(1) (縮尺1/200)

七日市遺跡(丹波市春日町)



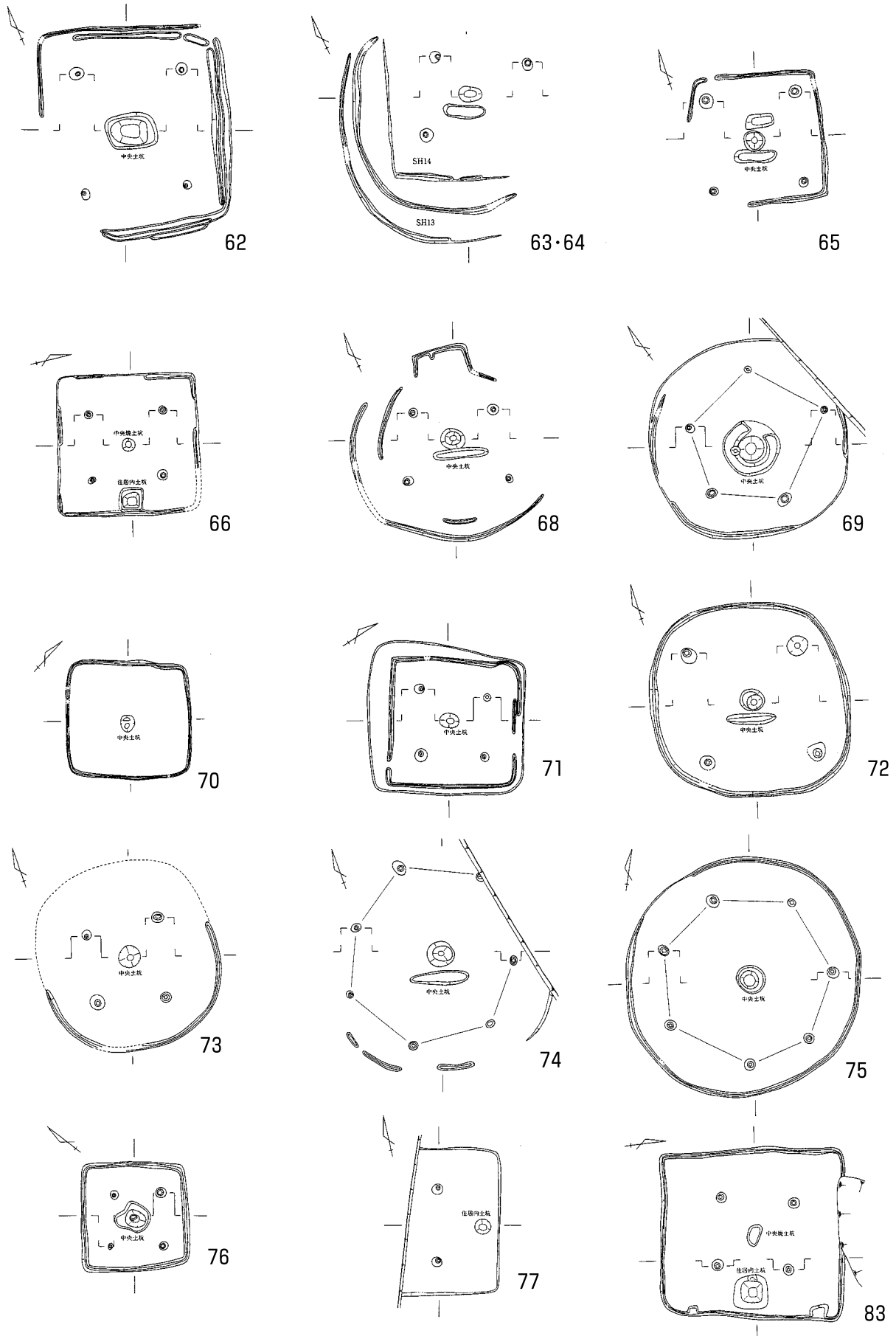
第7図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(2) (縮尺1/200)

七日市遺跡(丹波市春日町)



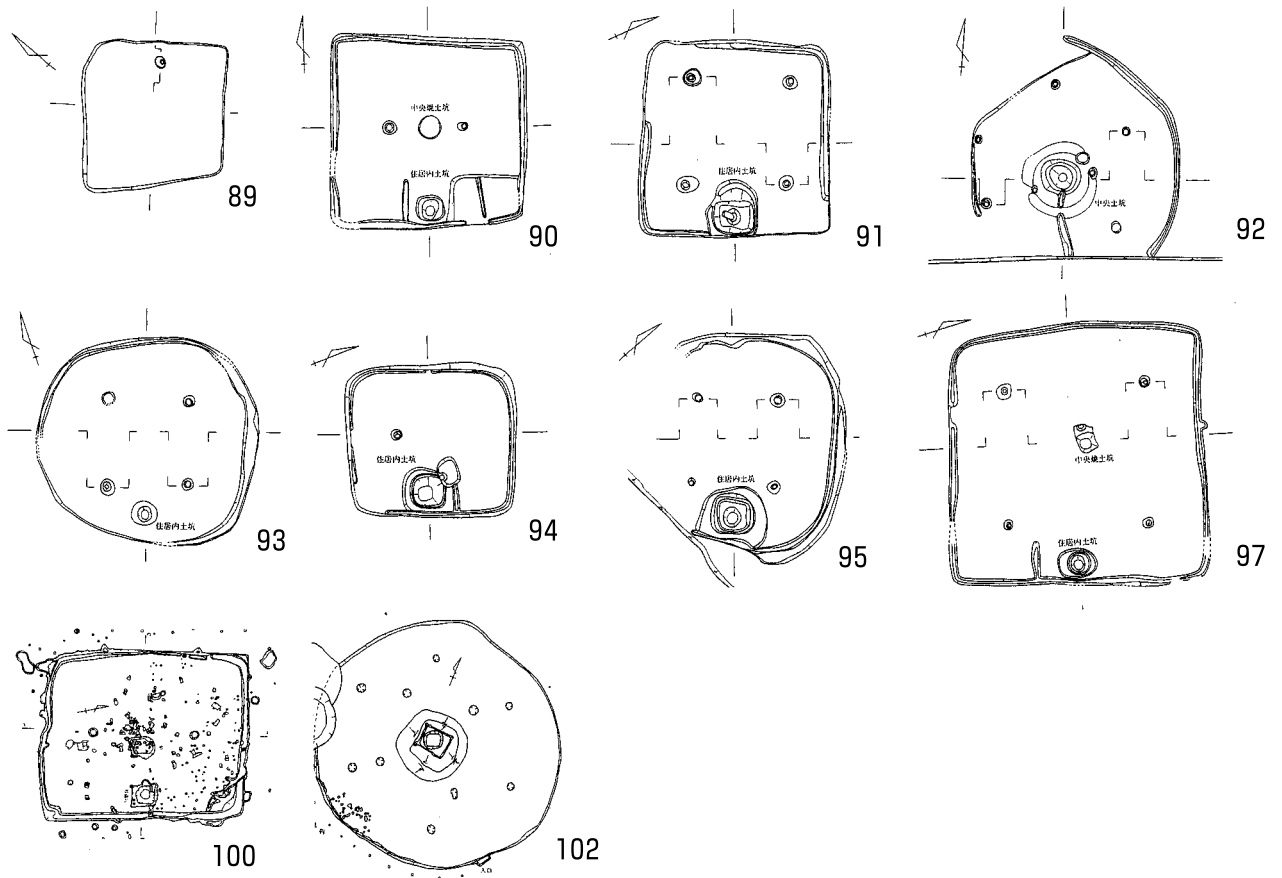
第8図 兵庫丹波弥生時代竖穴建物集成(3) (縮尺1/200)

七日市遺跡(丹波市春日町)

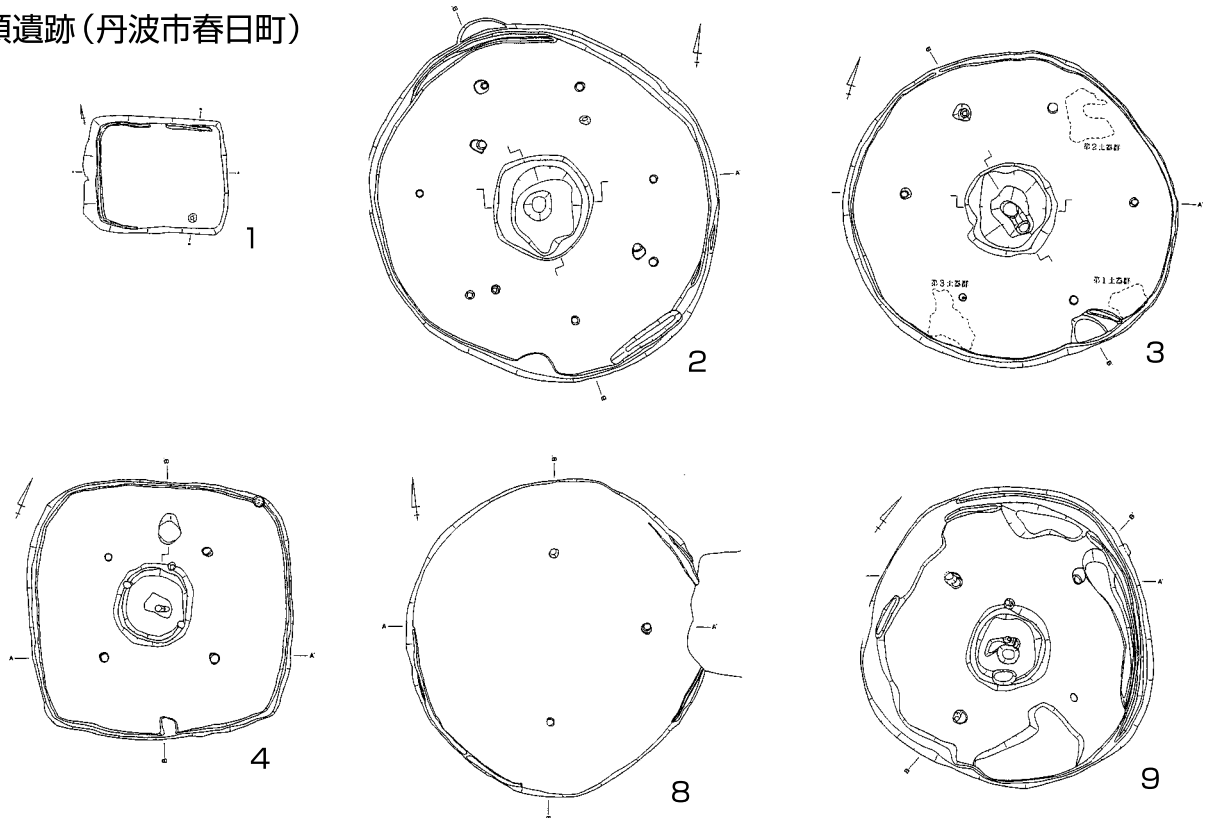


第9図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(4) (縮尺1/200)

七日市遺跡(丹波市春日町)

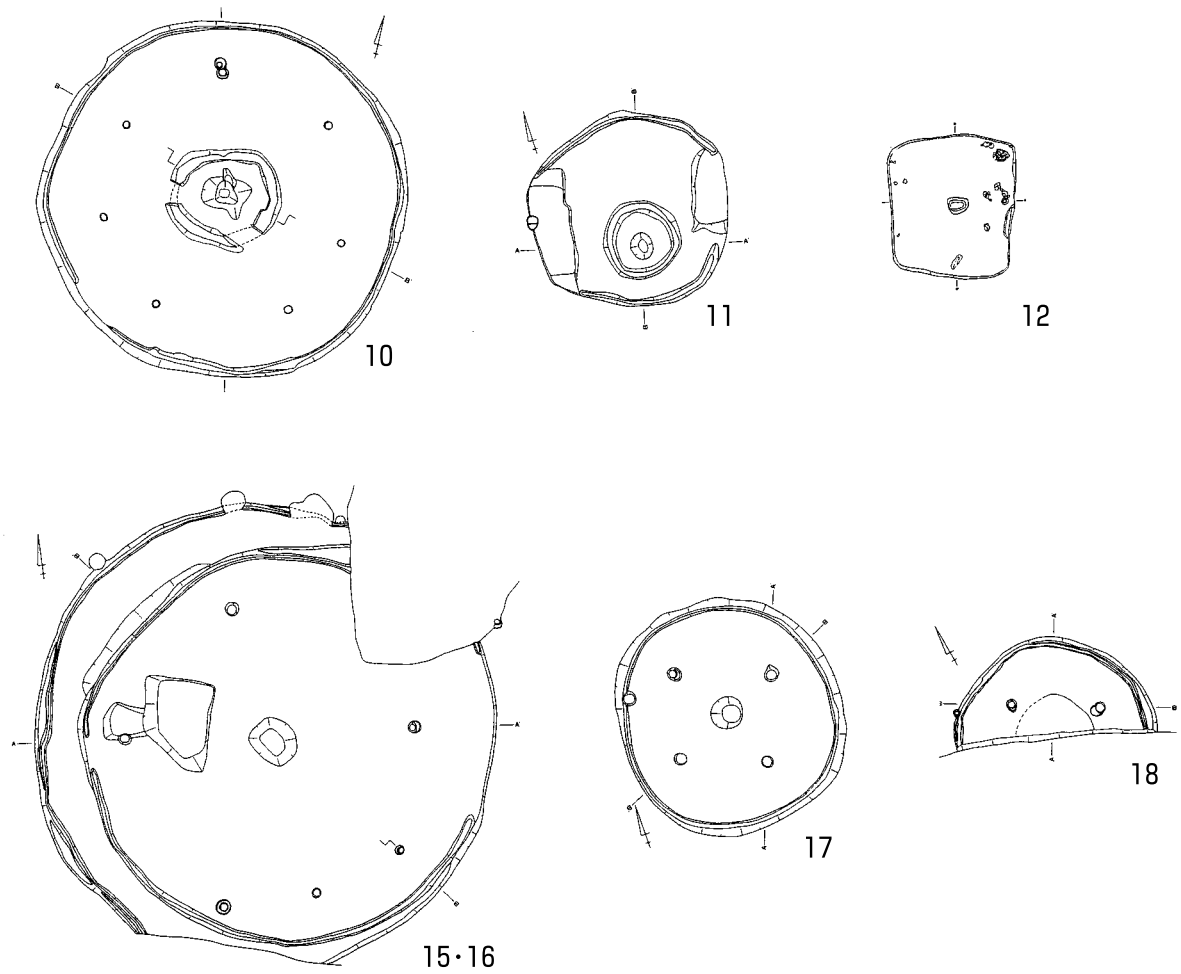


国領遺跡(丹波市春日町)

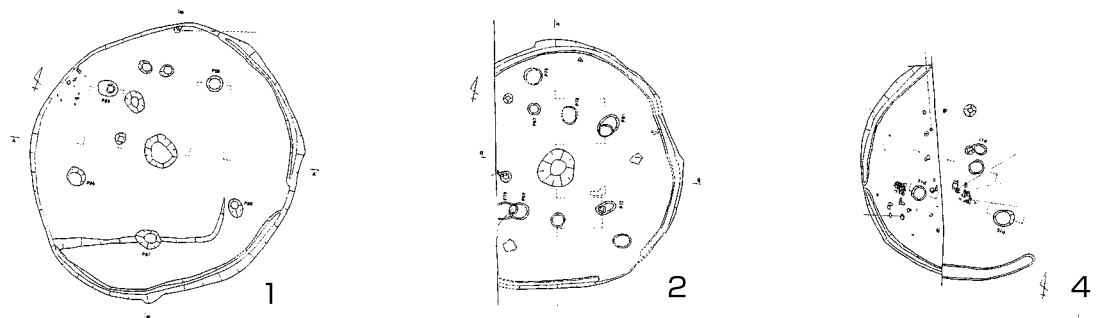


第10図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(5) (縮尺1/200)

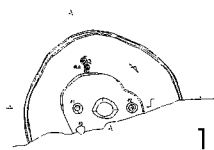
国領遺跡(丹波市春日町)



的場遺跡(丹波市市島町)

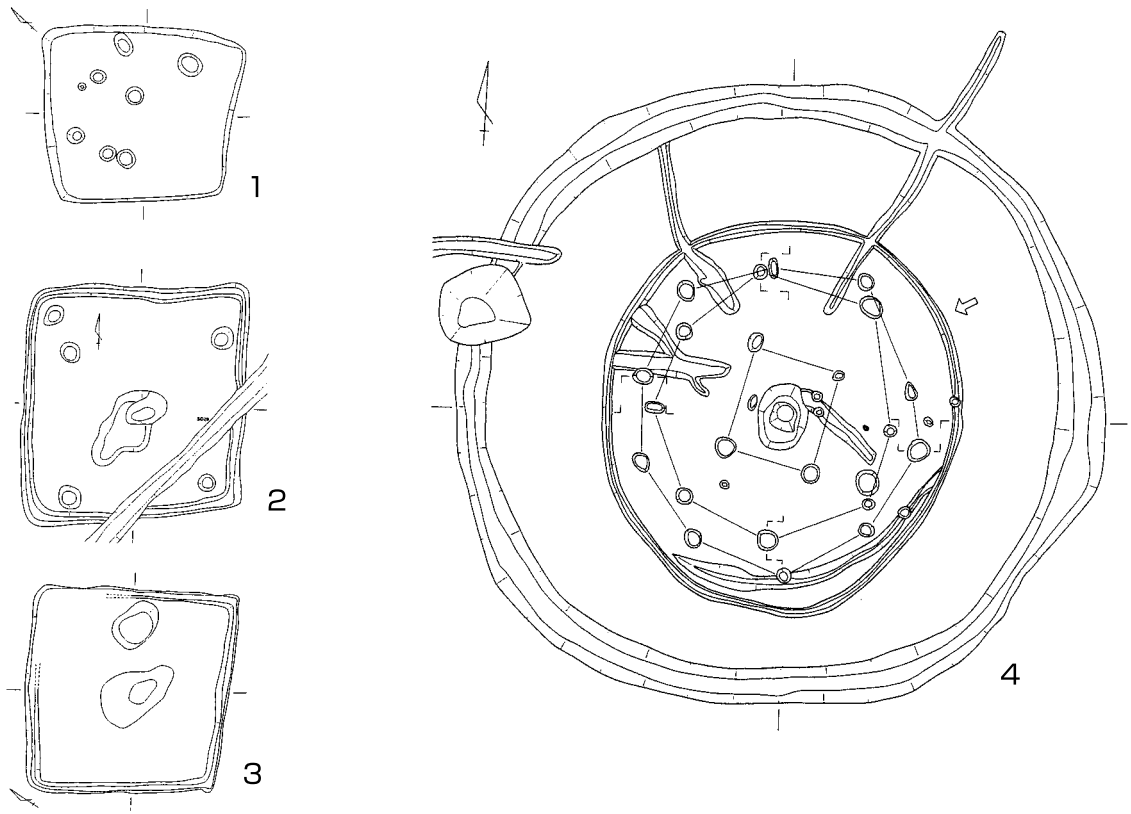


高坂西遺跡(丹波市市島町)

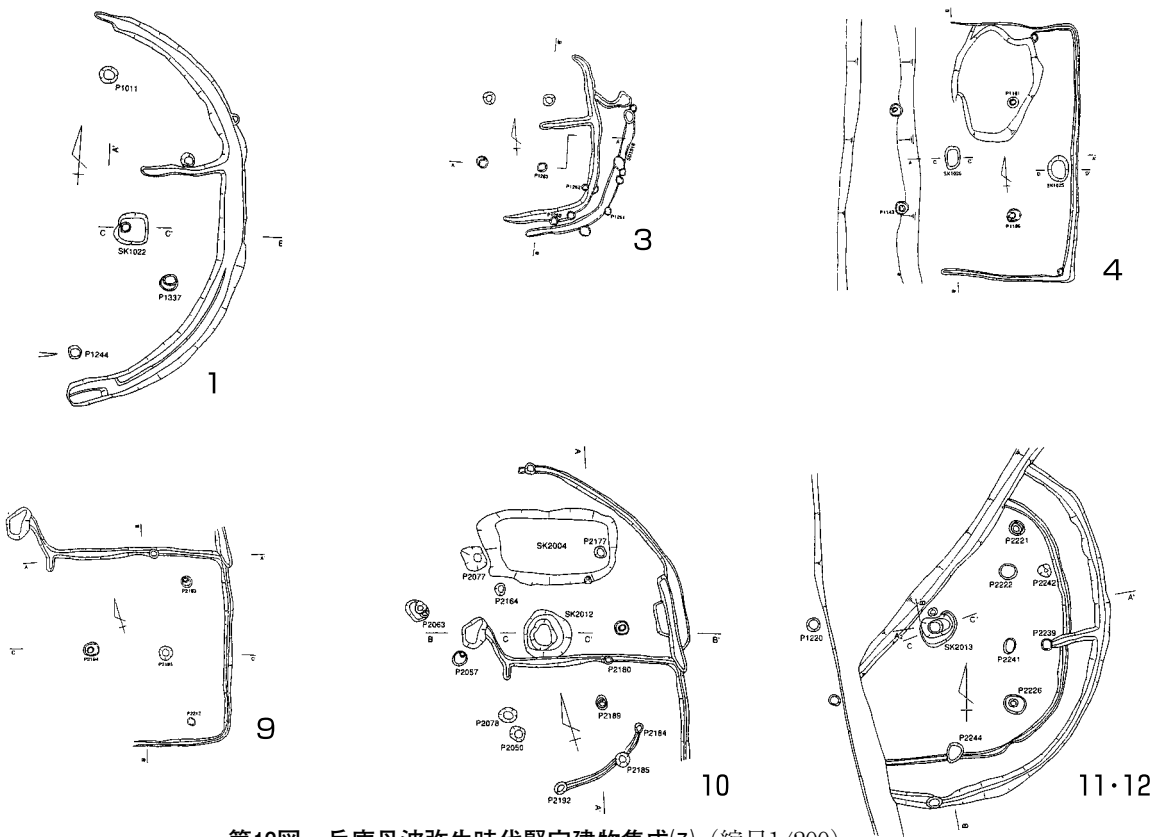


第11図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(6) (縮尺1/200)

市辺遺跡(丹波市氷上町)

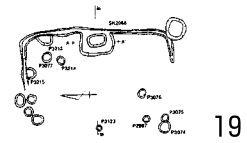
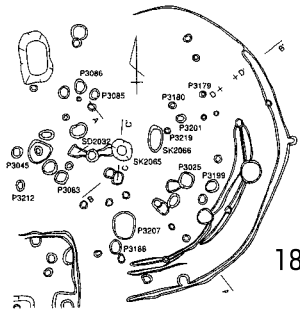
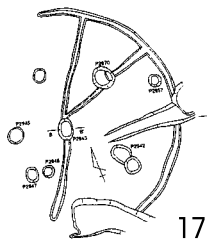
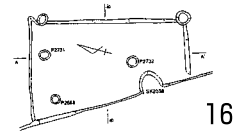
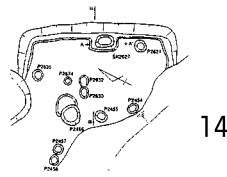
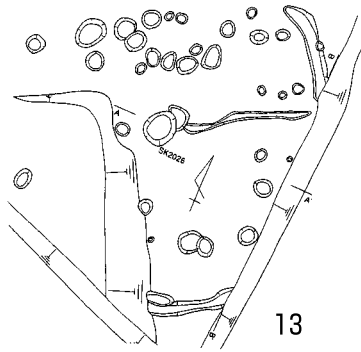


横田遺跡(丹波市氷上町)

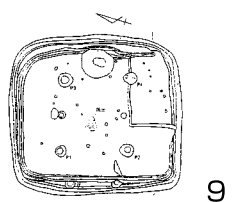
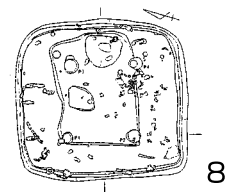
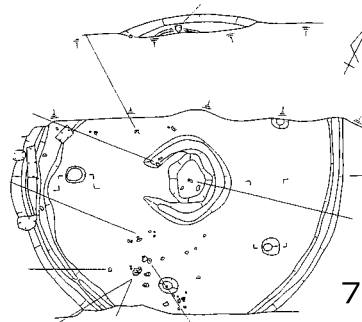
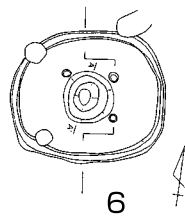
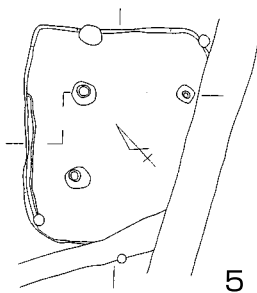
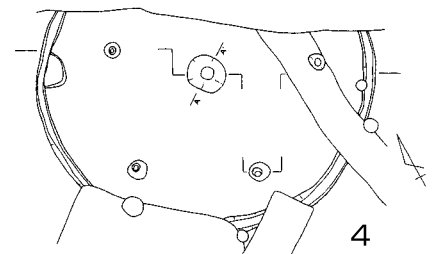
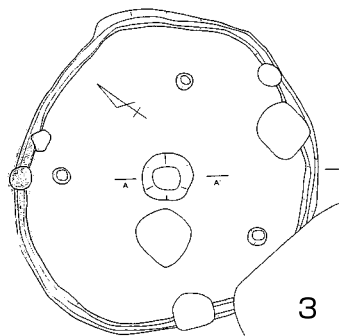
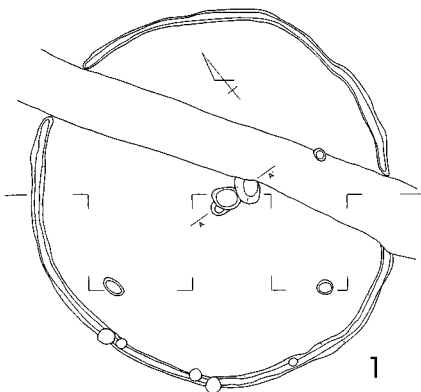


第12図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(7) (縮尺1/200)

横田遺跡(丹波市氷上町)

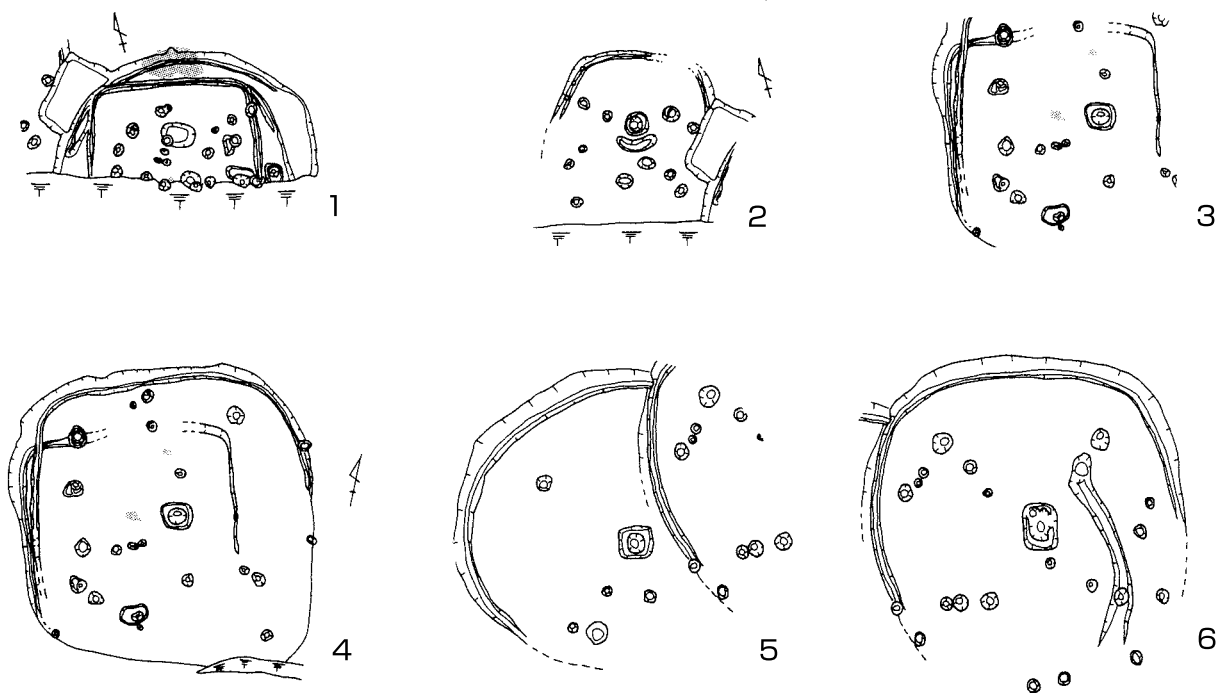


沢野遺跡(丹波市青垣町)

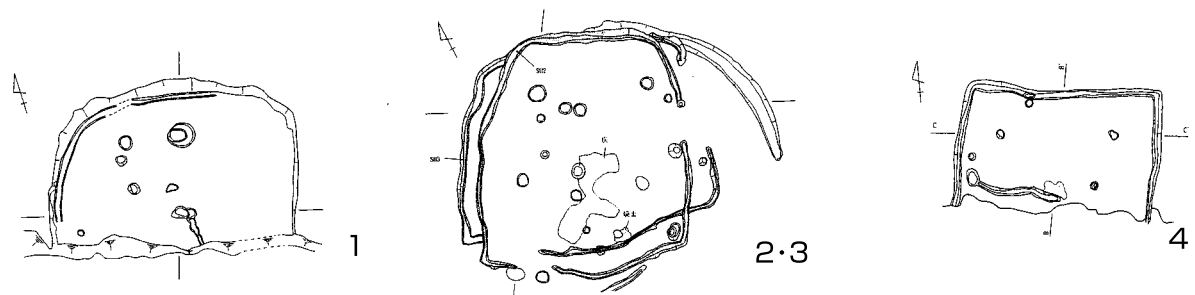


第13図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(8) (縮尺1/200)

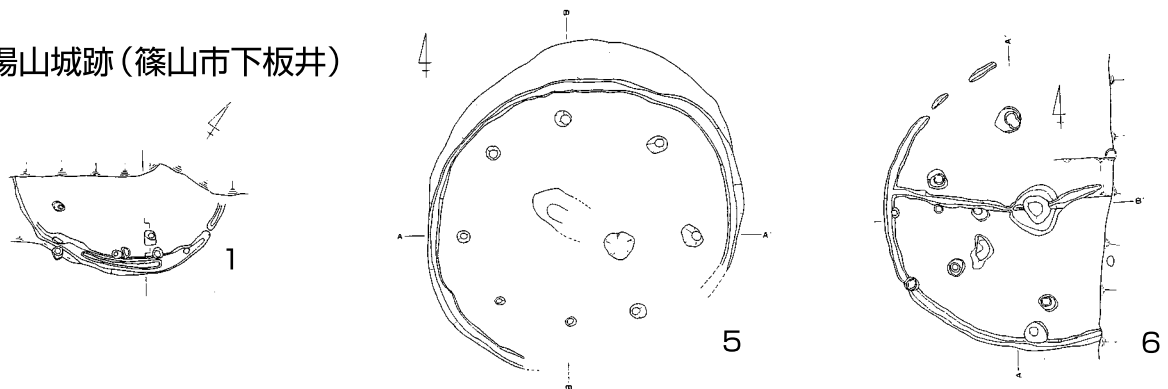
田井縄遺跡(丹波市青垣町)



西木之部遺跡(篠山市東木之部)

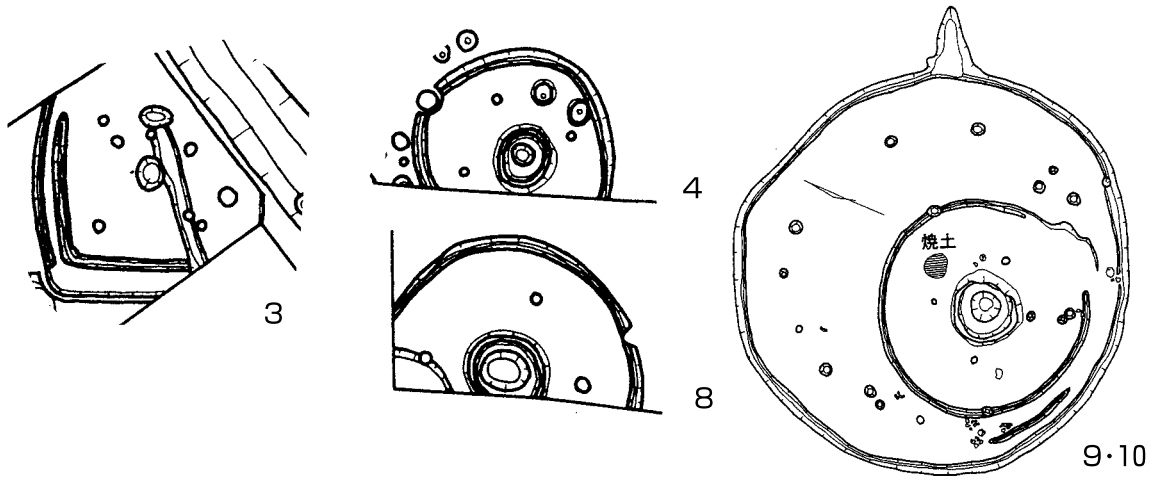


内場山城跡(篠山市下板井)

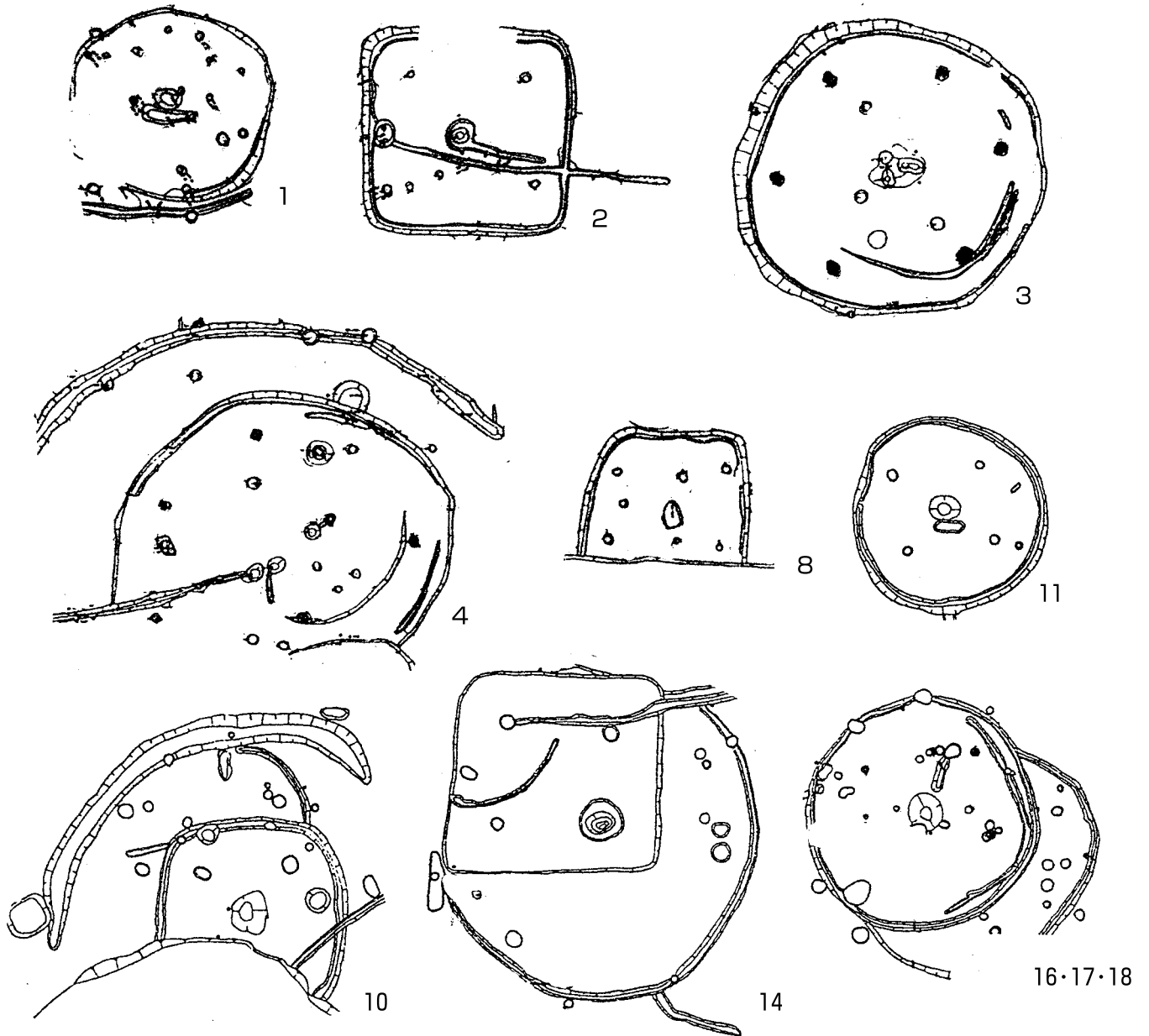


第14図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(9) (縮尺1/200)

北野遺跡(篠山市北野)

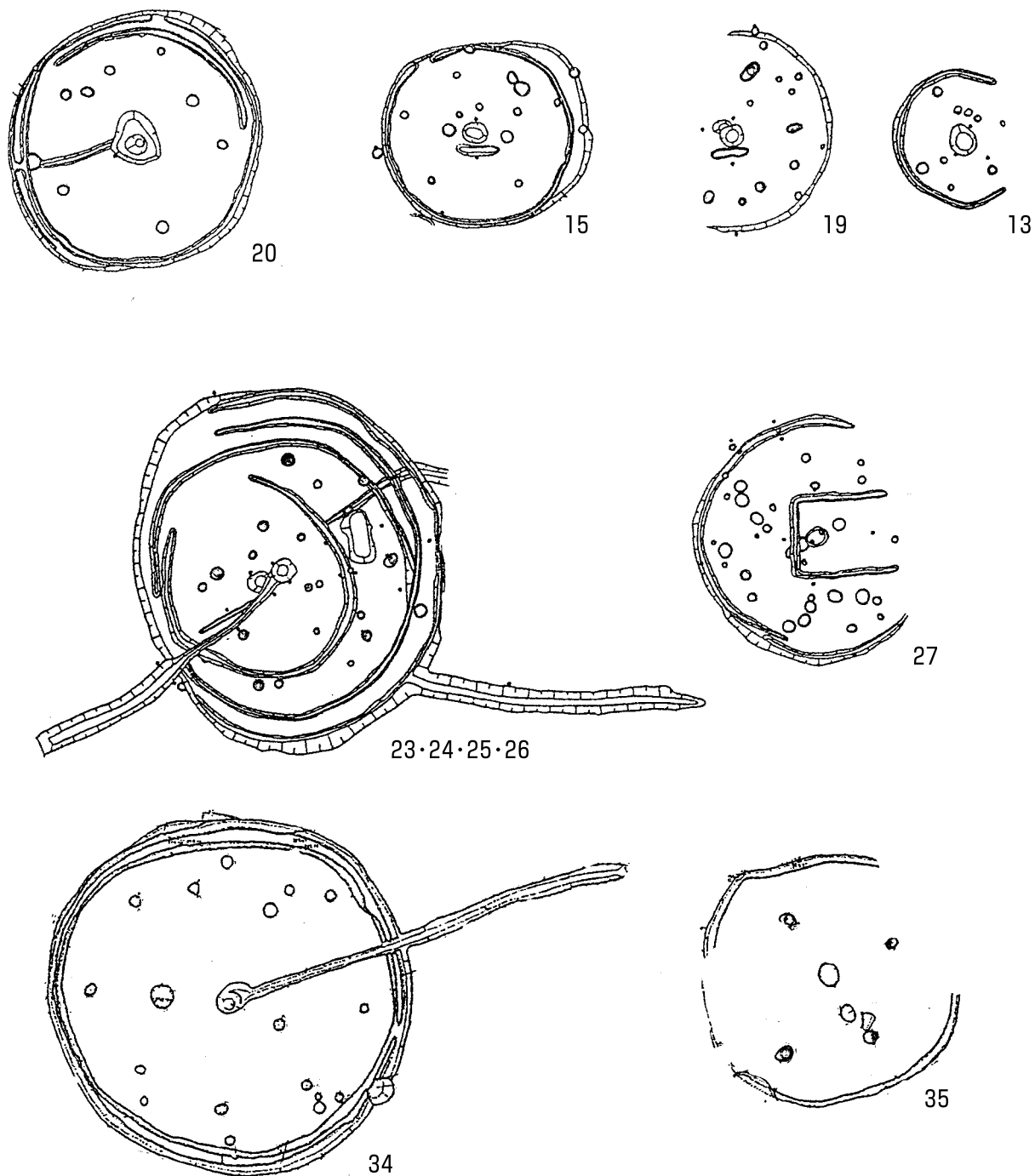


桂ヶ谷遺跡(篠山市大山下)



第15図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(10) (縮尺1/200)

桂ヶ谷遺跡(篠山市大山下)



第16図 兵庫丹波弥生時代竪穴建物集成(11) (縮尺1/200)